



キーパーソンインタビュー

竹中平蔵
工藤和美

クリエイターインタビュー

深町健二郎

特集

FUKUOKA NEXT

徹底解説「FUKUOKA NEXT」

・福岡市は次のステージへ

データは語る

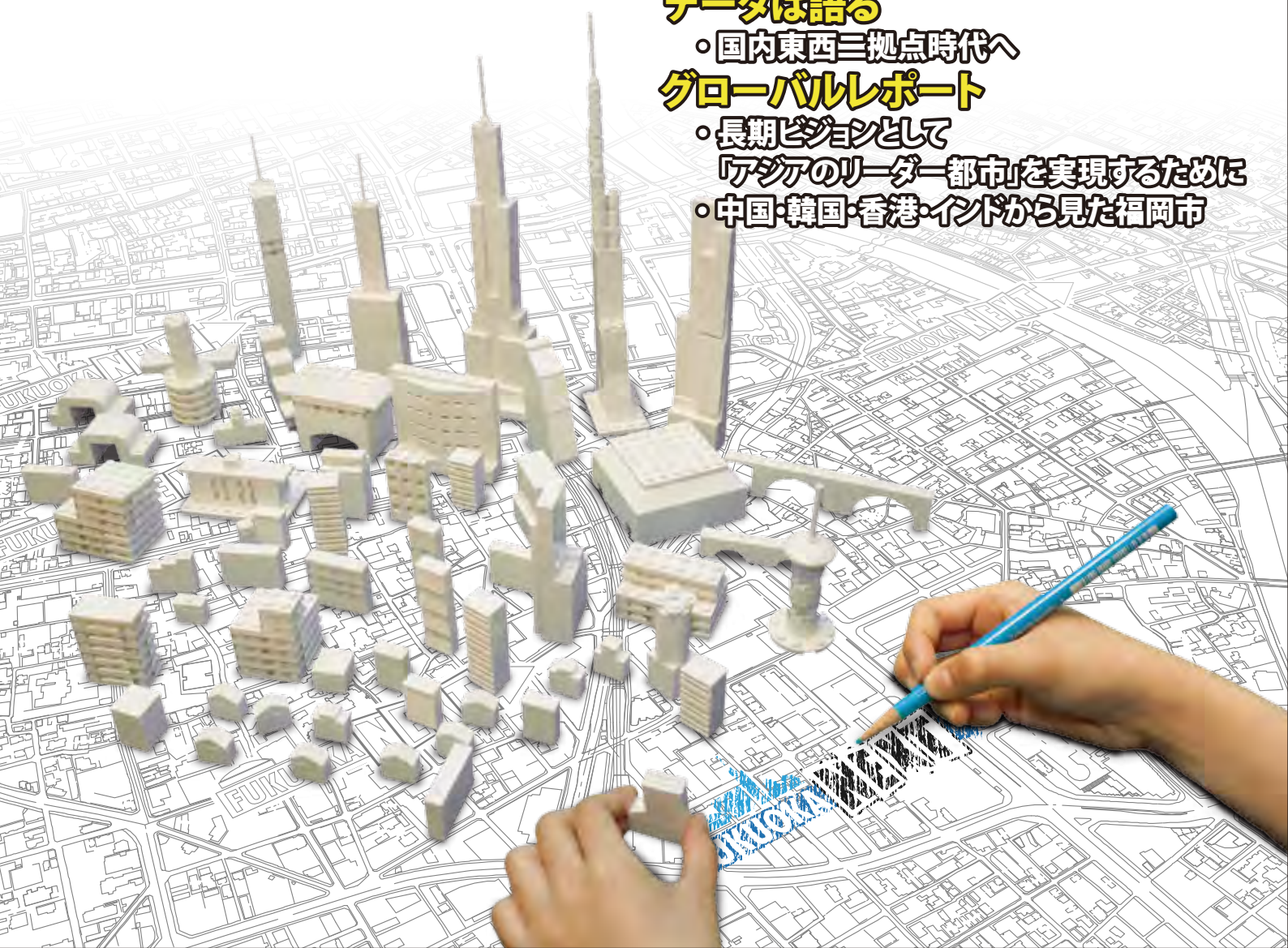
・国内東西三拠点時代へ

グローバルレポート

・長期ビジョンとして

「アジアのリーダー都市」を実現するために

・中国・韓国・香港・インドから見た福岡市



新たなステージに立つ、福岡市。

チャレンジし続ける都市が極めて限られている今の日本。

活があり、チャレンジできる福岡市は、稀少な存在だ。

そんな福岡市に、昨今、求められる役割も大きく変わってきている。

その期待に応えるべく、福岡市は次のステージに向かって、

さらなるチャレンジを展開しようとしている。

市民が一丸となって、わが街・福岡を次の舞台へと導く。

まさに今、そのスタートラインに立っている。





CONTENTS

特集

FUKUOKA NEXT

- 2-3 ◎巻頭メッセージ
いよいよ福岡市がめざすアジアのリーダー都市へ
福岡市長 高島 宗一郎
- 4-5 ◎キーパーソンインタビュー
福岡市は、改革の先頭を走る「フロントランナー」だ！
竹中 平蔵
- 6-7 ◎キーパーソンインタビュー
海と歴史を見つめたまちづくりを
工藤 和美
- 8-9 ◎クリエイターインタビュー
市民が誇りを持つ音楽都市へ
深町 健二郎
- 10-17 徹底解説 アジアのリーダー都市へ
「FUKUOKA NEXT」
- 18-19 データは語る「国内東西二拠点時代へ」
- 20-27 グローバルレポート
長期ビジョンとして「アジアのリーダー都市」を実現するために
過去と未来の体験ができる福岡市
韓国から見る不動の人気を誇る福岡市
香港における「遊日ブーム」
～行ってみたいから、住んでみたい、働いてみたい福岡へ
インド人からみた日本人と福岡市のポテンシャル
- 28-29 URC活動の報告

アジアのリーダー都市へ

FUKUOKA NEXT

いよいよ福岡市がめざすアジアの

画期的な方法で策定した「福岡市総合計画」

平成23年5月、「福岡市の新しいビジョンを一緒に作りましょう!」という呼びかけから“アジアのリーダー都市ふくおか!プロジェクト”が始まりました。このプロジェクトでは、「25年後の福岡をどのようなまちにしたいか」について、フォーラムの開催、アンケート調査などに加え、新たな手法として、100回を超えるワールドカフェの開催やソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブック)を活用した意見募集を行い、延べ1万人以上の市民に関わっていただきました。

福岡市では、このように多くの市民の意見をもとに、「福岡市総合計画」を策定し、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを基本戦略として掲げ、「人と環境と都市

活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざして、まちづくりを進めています。

TAKASHIMA
SOUICHIRO

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

「都市の成長」の実現に向けては、福岡市の産業は、第三次産業が9割を占めており、消費者を増やす、交流人口を増やすことが経済の活性化につながることから、まずは観光の振興、国際会議やイベントの開催・誘致に取り組んできました。また、地域経済の活力を取り戻すために企業誘致に取り組み、昨年5月には、政府からの要請を受けて安倍総理大臣の訪英に同行し、ロンドン市で開催された「対日投資セミナー」において、プレゼンテーションを行うなど、私自らトップセールスを積極的に実施してきました。

その結果、観光客数が大幅に増加し、国際会議の開催件数は5年連続で東京都について全国2位となり、さらに、誘致企業による新規雇用は1万人以上にのぼり、市税収入は過去最大となりました。

こうした都市の成長による財源を元に、ノンステップバスの導入拡大などユニバーサル都市・福岡の推進や保育所整備など子育てしやすい環境づくり、防犯灯のLED化など安全安心なまちづくりなどに積極的に取り組んできたことによって、福岡市を住みやすいと感じる市民は95%以上にのぼり、イギリスの情報誌「MONOCL E」では、「世界で最も住みやすい都市」の10位に選ばれるなど、「生活の質の向上」も着実に進展しつつあります。



▲Forbes Japan(フォーブスジャパン)2015年4月号発行：アトミックメディア 発売：プレジデント社 著名な経済誌も「若者起業率No.1! 福岡市が日本のシアトルになる日」として特集を組んだ

リーダー都市へ

このように福岡市は、元気なまち・住みやすいまちとして国内外から注目を浴び、その存在感は高まっています。

加えて、急激な少子高齢化・人口減少、これに伴う地域経済の衰退により、全国的に地方が現状維持していくことすら困難な時代へ突入している状況にあって、九州、そして日本全体の中での福岡市の位置づけと役割も大きく変わろうとしています。

次の時代に向けた成長

今まさに、動き始めた「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環をより確かなものとし、福岡市がもつ潜在力を開花させ、次のステージへと大きく飛躍させなければなりません。

そのため、人流・物流の過密化が進む福岡空港や博多港、利用ニーズに応えきれないコンベンション施設、老朽化が進む都心ビルなどの都市機能を更新し、高め、福岡市が次のステージの役割を果たせるよう、都市の供給力の向上を図っていきます。

特に、天神地区においては、国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」によって、「航空法の高さ制限の特例承認」を獲得したこの機を逃すことなく、これに合わせてまちづくりを促す「容積率の緩和」を福岡市の独自施策として実施し、都市機能の大幅な向上と増床を図ります。さらに、雇用創出に対する立地交付金制度の活用など、ハード・ソフト両面からの施策を組み合わせることで、アジアの拠点都市としての役割、機能を高め、新たな空間を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」を推進します。

また、新たに事業を始める創業や既存企業が新しく事業を生み出す第二創業は、多くの雇用と新たな価値を創り出します。国家戦略特区という推進エンジンを活かし、新しい価値の創造を福岡市がしっかりバックアップするとともに、中期的には支店経済からの脱却をめざして、次の時代に向けた「都市の成長」の種をしっかりと育てます。



▲平成24年多くの市民がワールドカフェで将来のビジョンを語った

アジアのリーダー都市へ

一方、今後少子高齢化の進行により、「支える側」「支えられる側」の人口バランスが変化し、財政制約が高まっていく中であっても、「生活の質」を維持、向上していかなければなりません。このため、高齢者などに対するこれまでの地域による見守りと最新のICT(=情報通信技術)の活用を組み合わせた見守りの体制づくりなど、様々な制度や事業を、次の世代にとって持続可能な新しい仕組みに作り変えていきます。このチャレンジを、今後の地方創生のモデル都市となるべく、国や民間とともに積極的に進めていきます。

こうした、経済的な成長と質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な「アジアのリーダー都市」をめざし福岡市を次のステージへと飛躍させるための施策を「FUKUOKA NEXT」として一体的に推進し、九州・日本の成長を、そして、地方創生を力強く牽引していけるよう、勇気とスピード感をもって全力でチャレンジしていきます。



▲積極的なプロモーションを重ねており、平成26年は政府とともにイギリスで行う(写真提供:内閣広報室)

Interview
キーパーソンインタビュー

たけなか へいそう
竹中 平蔵
Takenaka Heizou

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

福岡市は、
改革の先頭を走る
「フロントランナー」だ！

世界経済が成長する中、
正念場の改革を進める日本

経済状況は短期的には悪くない見通しで、IMF（国際通貨基金）によると、世界の経済成長率は、昨年の3.3%から今年は3.8%に上がり、アメリカの経済成長率は、昨年の2.2%から今年は3.1%ぐらいになるとのことです。日本経済は消費税引き上げの影響で去年はマイナス成長ですが、今年はプラスに転じるはずで、中国は横ばいだと見られています。アメリカと日本が良くなり、中国が横ばいであれば、世界経済が悪くなる懸念は何もないと、アメリカの経済学者アダム・ポーゼン氏も言っています。

現在、日本では安倍内閣による成長戦略が進んでいます。成長戦略は基本的に2つのことが必要で、企業の行動を縛らないようにするための規制改革と、企業の負担を軽くする法人税減税や公共料金の引き下げです。昨年夏、これらを成長戦略の第2弾として打ち出したところ、面白い現象が起きました。英国のエコノミスト誌が「三本の矢というよりは、千本の針を日本社会に打ち込んでいる」といった表現で、日本の成長戦略を絶賛したのです。すると直後に、同じく英国のフィナンシャルタイムズ誌が「正しいことではあるが、非常に強い抵抗勢力があるので、空振りに終わるだろう」との記事を書きました。この2つの記事は両方とも重要なことを示していると思います。

世界経済の明るい見通しに慢心せずに、日本は正念場の改革を進められるかどうか。そこが今、非常に大きな焦点になっているのではないのでしょうか。

地方創生のボールは
国から地方や民間企業へ

経済成長の成果を地方に行き渡らせるため地方創生を進めています。その目玉の「地方版総合戦略」は地方を活

Profile

慶應義塾大学総合政策学部教授、グローバルセキュリティ研究所所長、博士(経済学)。1951年、和歌山県生まれ。一橋大学経済学部卒業。ハーバード大学客員准教授、慶應義塾大学教授などを経て、小泉純一郎内閣で経済財政政策担当大臣、金融担当大臣、郵政民営化担当大臣、総務大臣などを歴任、「構造改革」を主導。第2次安倍内閣では「産業競争力会議」および「国家戦略特別区域諮問会議」のメンバーとして活躍。その他、公益社団法人日本経済研究センター研究顧問、アカデミーヒルズ理事長、株式会社パナグループ取締役会長などを兼任。「日本経済のシナリオ」(KADOKAWA)、「竹中流『世界人』のスヌメ」など、著書多数。

性化するための基本計画を自治体が自らつくり実施するものです。

実は今、「やる気のあるところは手を挙げてください、そういうところへ行く気がある企業は行ってください」などと一部のボールは国から地方や民間企業へ投げられています。

この動きは既に始まっていて、例えば国家戦略特区の農業分野でも、いくつかの自治体が断念した中、圧力に負けずに残ったのは兵庫県養父市やぶしでした。この養父市が改革に着手し、新しい資本が入るようになると、愛知県常滑市など他の地域でも手を挙げるところが出てきたわけです。こうした改革の連鎖がとても重要だと思っています。

地方分権は税源移譲も含めて進めるべきだ

実は、安倍政権で、今後大きく踏み込むべきことのひとつが、地方分権です。現在、国民は税金の3分の2を国に納め、3分の1を地方に納めています。ところが、その税金の3分の2を地方で使い、3分の1を国が使っています。要するに、国と地方の受益(納めた税金から受けるサービス)と、負担(納めた税金)の割合が一致しておらず、その一致しない分を国から地方への交付金や補助金で賄っているんです。今の制度は、地方は自由がない代わりに、国が面倒を見る仕組みになっています。地方分権の基本は住民の受益と負担が明確になることです。「私はこれだけの税金を払っているんだから、これだけのサービスをしてくれよ」との住民の声に地方が責任を持つことで、住民主体の地方運営ができます。今後は、税源移譲も含めた地方分権を進めていくべきだと思います

改革の「見える化」を行い、多面的な機能を果たす都市へ

特区の中でも、非常に未来を感じさせるのが福岡



松坂選手のユニフォームを手に「パリーグの方が、おもしろいよね～。ホークスは強い!」と笑顔の竹中氏

市の「創業特区」です。高島市長が勇気と英断を持って、国家戦略特区に手を挙げられました。そんな福岡市をたいへん評価しています。現在、福岡市では「雇用労働相談センター」も機能し始めていて、ここまで持ってくるのには、高島市長は本当に大変だったと思いますよ。ぜひ、この改革の「見える化」を期待したい。ものすごく複雑な行政の手続きの改革などは、携わっている者からすると非常に大きな一歩なのですが、国民から見ると、「何それ?」と思うわけです。そこを「見える化」する工夫が、行政には必要です。「なるほど、福岡市では新しい働き方をしている人が増えてきたね」と思える事例がいっぱい出てくればいいですね。

前回の東京オリンピックで、新幹線や道路、ホテルができて、日本が大きく変わりました。同じように2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ勢いをつけて改革をやろうと「改革2020」をとりまとめています。今後5年間は改革を進めるいい意味で特別な時期になると思います。

福岡市は新幹線があって空港も近い都市なので、アジアを結ぶハブになれると思います。まずは創業特区を成功させて、それをきっかけに、ほかにも多面的な機能を果たして欲しいですね。

これから先、福岡市には、先頭を思い切り走る「フロントランナー」になっていただき、若くて元気のある高島市長にますます多方面でのチャレンジを続けて欲しいと思うんです。

interview
キーパーソンインタビュー

く どう か ず み 工藤 和美

KUDO KAZUMI

巻頭メッセー

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

大陸文化が入ってきた福岡は歴史的にも重要な場所

福岡市には、古くから「袖の湊」という港があったり、中国や韓国から、お茶、うどんなど、多くの文化がここに入ってきました。そして、この地を経由して日本中に伝えていったという歴史的にも重要な場所です。いわば、日本文化の発祥地とも言えるのではないかと思います。2001年、旧奈良屋小学校の跡地に4校統合により博多小学校を造る際、私は設計を担当したのですが、そうした福岡の古い歴史を意識して建築させていただきました。そうした経験を経て、福岡市は日本を代表する文化の入り口として、アジアに向けて手を広げていくことが大事だということを改めて感じています。

近年の福岡市は、都心部にもマンションが建ち並び、街の中に住む人たちも増えてきました。徒歩や自転車で通勤できるコンパクトな都市なのでシティライフが満喫できますし、車で2、30分ほど行くと山や海があるため自然豊かな郊外の住まいを選ぶこともできます。そこが今の福岡市の特色の一つだと思っています。また、天神を中心に商業が集積していて、全国の中でもとても買い物がしやすい街です。それが九州はじめ全国、そしてアジアから多くの人を呼び込む大きな要因になっています。

こうした都心部の賑わいに加え、博多港周辺に歴史



「歴史的にも重要な福岡市が、どう変わるか楽しみです」と笑顔で話す工藤氏

を大事にした、文化、商業、人々の生活の場があって、海から来る人やモノをおもてなしできるようなシーンがあればいいと思います。幸い、博多湾は波風もおだやかで、周辺には玄界国定公園も広がっていて、景色もとても美しい。そこに、住む人も、訪れる人も憩えるような場があれば、福岡市はさらに賑やかで楽しい街になるのではないのでしょうか。

建築やデザインで、国際色豊かな都市へ

今、福岡では、大濠公園と舞鶴公園を一体化する「セントラルパーク構想」が進んでいます。大濠公園、舞鶴公園は、敷地面積が広いだけに、六本松側、西公園側など、いろいろな場所から入れるため、逆にわかりにくい場所になっているかもしれません。ニューヨークのセントラルパークも入口が数か所あって、どのアベニュー側で接しているかで、イメージがまったく違います。大濠公園も、大きくて居心地の良い公園だからこそ、特色ある位置づけが必要になってくるでしょう。食べ物もおいしく、ショッピングも便利な福岡市ですが、観光する場がないとよく言われます。その福岡の観光のメッカになれるように、セントラルパークの整備がなされることを期待しています。

福岡市の観光では、博多祇園山笠が有名ですが、青森の「ねぶた会館」のように、常時、博多山笠を紹介するような会館ができればいいですね。そうすると、福岡市を訪れたら、博多の文化を観て、セントラルパークの舞鶴公園の「鴻臚館」で歴史を感じて、といった、福岡・博多ならではの観光ができますよね。もう一つは、金沢市の「21世紀美術館」のような、現代アートが集積した美術館があればいいですね。アートに接し、刺激を受けたいと思っている若い人たちも訪れることでしょう。

建築やデザインに関しては、正直言って、福岡市は後発だと思いますが、その分、大きな可能性を秘めています。熊本のアートポリスや香川県直島の美術館のように、世界に発信するような建築をぜひ手掛けてい

Profile

建築家。シーラカンズK&H株式会社代表取締役。東洋大学理工学部建築学科教授。国家戦略特区ワーキンググループ委員。1960年、鹿児島に生まれ、福岡で育つ。1983年、IAESTEスイス研修留学を経て、1985年、横浜国立大学建築学科卒業。1986年、シーラカンズを共同で設立。1987年、東京大学大学院修士課程修了、1991年、東京大学大学院博士課程修了。1998年、「シーラカンズK&H」に改組。著書に「学校をつくらう!子どもの心がはすむ空間」(TOTO出版)、「図書館をつくる」(彰国社)などがある。2014年、「シーラカンズK&H」が設計した熊本県山鹿市山鹿小学校の建築が、日本建築家協会のJIA日本建築大賞を受賞。

ただきたい。芸どころでもある福岡には、アートセンスを持っている人がたくさんいます。私は、福岡市はモノを作り出し、それを財産にしていくことができる都市だと思っています。

デザイナーの世界では、グッゲンハイム美術館やニューヨーク近代美術館(MOMA)にコレクションされることが最大の喜びとなっています。福岡市も、感性豊かなデザインを多くコレクションして、「福岡に選ばれた」ことがステイタスになるような美術館や博物館などがあればいいなと思っています。国際交流を行ってきた歴史を活かし、そこに日本を超えて、香港、中国、シンガポールなど、アジアの新進気鋭のデザイナーたちを呼んでくるというのはどうでしょう。九州、日本のみならず、アジア各国でも、きっと話題を集めると思いますよ。

福岡市にとって、今、「一番いいカード」を切るとき

福岡市に次に求めたいのは、ウォーターフロントへの商業集積と住まいです。いま、ロンドン、ニューヨーク、ボストンなど、世界的にドッグヤードの開発が行われています。一方、福岡市を見ると、国体道路、明治通りとポテンシャルの高い街が続いていますが、昭和通り、那の津通りと、海が近づくにつれて賑わいが少なくなっていて、私はそれをとても残念に思っています。ウォーターフロントの開発は、福岡市にとって、「一番いいカード」と言えるかもしれません。今まさに、そのカードを切るときなのではないでしょうか。

福岡市の高島市長は、とても発信力のある方で、「これをやってみようよ!」と先陣を切って決断し、元気のある福岡市の象徴でもあると感じています。行政や市民も一緒になって、私の故郷でもある福岡市を、ぜひ盛り上げていっていただきたい。ウォーターフロントをはじめ、福岡市が今まで切っていなかったカードはたくさんあります。それを一つ一つ成し遂げていって欲しいですね。今後の福岡市の活躍を大いに期待しています。

海と歴史を 見つめた まちづくりを。



interview
クリエイターインタビュー

ふかまち けんじ ろう
深町 健二郎
Fukamachi Kenjirou

市民が誇りを持つ
音楽都市へ

海外に向けて開かれた気質が、
福岡の音楽、芸能を創り出した

博多が「日本のリバプール」と呼ばれた1970年代、「めんたいロック」が一世風靡した80年代、福岡市の音楽シーンは全国から注目されていました。その頃は、今のようにインターネットなどはありませんから、福岡と東京との情報格差が今よりも大きく、若者たちは街のライブハウスに足繁く通い、ラジオでようやく海外の音楽を知っていたという時代です。逆に言うと、過去の福岡市には、情報に渴望しているからこそ生まれてきたエネルギーがあり、独自の音楽が創られていったのではないかと思います。

なぜ、福岡市でレベルの高い音楽が生まれたのか。その要因の一つは、福岡市が辿ってきた歴史にあると考えています。昔から福岡の地は港町で、アジアから文化が入ってくる先端の場所でしたので、古くからなんでも受け入れていく資質があったのではないのでしょうか。芸能の歴史をさかのぼると、明治初頭、福岡市には、日本の演劇のルーツと言われる「川上音二郎」という演劇人がいました。当時、海外から多くの文化を取り入れようとしていた時代に、川上音二郎は、逆に自分の演劇をヨーロッパやアメリカに持ち込んだのです。川上音二郎一座の芝居は海外でも受け入れられ、フランスでジャポネスク文化が生まれたきっかけにもなりました。日本人として初めてレコーディングにも関わったのも、川上音二郎だと言われています。

そうした海外に向けて開かれた気質が、福岡市には根づいていると感じます。1970年代、1980年代に活躍した先輩たちも、先人たちが築いてきたものを受け継ぎ、「福岡は特別な場所なんだ」という誇りを持って、新しいカルチャーを創り出していったのです。実は、そこには「勘違い」もあるんです。福岡の音楽を支えてきた老舗レコード店のオーナーがよく「ロックは勘違いだ」とおっしゃるのですが、なるほどそうだなと思います。戦後、若者たちの情報源となっていた在日米軍向けのラジオ放



巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

Profile

イベントプロデューサー、ミュージシャン。1961年、福岡市生まれ。幼少期にビートルズの音楽に出会い、ミュージシャンを志す。学生時代、福岡出身の陣内孝則のバンド「ザ・ロッカーズ」と親交を深め、ロッカーズ解散後、同ギタリスト谷信雄と共に「ネルソープ」を結成。解散後に帰福し、ミュージシャン「ジ・アコースティックス」として活動する傍ら、福岡のテレビ番組やコミュニティFM放送局などに出演。2001年8月、企画制作会社「フリースタイル」を設立し、企画プロデュースを手掛ける。2003年、福岡を舞台にした映画「ROCKERS」のコーディネーターを務め、出演するなど、福岡に根を下ろしたイベント、放送、音楽活動を続けている。

送「FEN」などがありました。福岡でも、そういう一部の限られた情報を得て、自分たちなりに解釈し、オリジナルにして行く過程で、別なものとして生まれ変わっていく。そこには「勘違い」もあり、洗練されたものではないかもしれないが、独特なものを持っている。そこが面白かったのではないのでしょうか。

今の福岡市には危機感がない だからこそ意識して仕掛ける!

現在の福岡市は、便利にはなりましたが、個性が薄まってきたのではないかと、という印象があります。また、福岡市は人口も増え、勢いがあると言われる反面、危機感がないのでは?とも感じています。私たちは、福岡市の先人たちが努力して培った財産の上にあぐらをかいているのかもしれない。だからこそ、意識して仕掛けないと、福岡らしさがどんどん損なわれていってしまいます。福岡市のアイデンティティは、やはり音楽ではないのでしょうか。先人たちが築いた音楽文化を引き継ぎ、「音楽都市・福岡」として、さらに新しいものを生み出す都市にしていきたいと思っています。

その仕掛けの一つが、昨年9月に開催した「福岡ミュージックマンス」です。昨年、たまたま福岡の9月のイベントを調べていたところ、面白いことに、第1週に糸島市の「サンセットライブ」、第2週に「中洲ジャズ」、第3週にはチャンネルシティで「アジアミュージックフェンド」、JR博多駅では「九州ゴスペルフェスティバル」、第4週には「ミュージックシティ天神」と、毎週音楽イベントをやっていることに気づきました。そこで、「この5つのイベントを連携させたら面白いのでは?」と考え、主催者の方々にお声をおかけし、「福岡ミュージックマンス」が実現したのです。福岡市からのサポートも受け、PRがしっかりできたこともあり、たいへんな盛り上がりを見せました。

その後、国際戦略特区の規制改革による公道を使ったイベント「福岡ストリートパーティ」を、11月22日から3日間、天神きらめき通りでありました。大

名のカフェなどに店出してもらい、昼間はアニメ「妖怪ウォッチ」のキャラクターと一緒に子どもたちが盛り上がりました。夕方以降、DJを招いて音楽を流したところ、きらめき通りがダンスホールと化し、訪れる老若男女がノリノリで踊ってくれたんです。今後さらなる発展の可能性を感じるイベントでした。

「やっぱり福岡市は面白い!」 そう思える都市になりたい

これまでの福岡市の財産を活かし、「音楽都市・福岡」を標榜するために、私は今、音楽や芸能に特化したミュージアムの新設を思い描いています。福岡市が数々輩出してきたミュージシャン、俳優、芸能人たちを紹介しながら、福岡市の過去、現在、未来が音楽でつながっていくようなミュージアムで、ライブホールがあつて、現在活躍中の芸能人の方々にステージに上がっていただいたり、これからミュージシャンや俳優、芸人を目指す若者がワークショップをしたり。そういう施設があれば、福岡市の新名所になり得るのではないのでしょうか。こうした音楽や芸能のミュージアムは海外にはありますが、日本にはありません。もし日本で造るのであれば、「福岡市しかないやろ!」と。市民の皆さんも、ぜひ一緒になって盛り上げて欲しいと思っています。福岡市の高島市長も、文化や芸術に関して理解があります。高島市長は、若くて機動力があり、今、循環型社会を作るために経済を一度取り戻そうとがんばっています。それに加え、文化・芸術的なものを取り込んだ仕掛けもぜひお願いしたいですね。

今後、福岡市がどこにでもあるような地方都市になってしまうのか、それとも、しっかりアイデンティティを持った都市になっていくのか。まさに今、分岐点に立たされています。私たちは熱い思いを持って、突破口を開いていかないといけない。5年後、10年後、訪れる人たちに「やっぱり福岡市は面白い!」と思ってもらいたい。そして何より、福岡市に住む私たち自身が、心から誇りに思う都市にしていきたいと思っています。

徹底解説

福岡市は次のステージへ。

●古来から日本とアジアを結ぶ拠点として発展した福岡市の過去、現在、そして次のステージであ

先人たちが常に将来を見据え切り拓いた半世紀

今、福岡市は、国内外から「住みやすく活気がある」と評価され、ぐんぐん成長しています。その理由は約50年前にさかのぼります。当時の日本の各都市の課題は、工業化。しかし、福岡市が選んだ道は、それとは逆の都市化の制御。交通ネットワークを充実させ、自然をそばにおいた都市づくりでした。さらに約28年前からは次の時代を見据えた積極的な国際市民交流を進め発展してきたのです。

日本で初めてマスタープランを描いた福岡市

1961年に福岡市は日本で最初に市総合計画(マスタープラン)で将来像を描いた後、何度もプランを見なおしながら、まちづくりを進めていきます。

空港や港、中心となる駅は、すべて都心から10分程度の距離に集め、それらを地下鉄や幹線道路などのネットワークで張り巡らせました。1981年に開業した福岡市営地下鉄は、1983年に博多駅、1993年には福岡空港へと延伸。福岡空港は日本で唯一地下鉄が乗り入れる便利な空港となりました。博多港では、海外航路のゲートウェイとして整備した「博多港国際ターミナル」が1993年に開業、物流の拠点としては1998年に「香椎パークポート」、2003年に「アイランドシティコンテナターミナル」をオープンさせました。また1980年に開通した福岡都市高速道路は、空港や港、市内各所を結び、1999年には九州自動車道につながります。来たるべき国際化時代にそなえ、福岡市は、国内外をダイナミックに結ぶことを目指していたのです。

まちづくりでは、1976年、天神地下街をオープンさせます。周辺を地下街でつなぎ、人の往来を活発にすることで、商業施設が集積し、世界でも評価されるショッピングゾーンとなりました。1982年からは、シーサイドももち地区、1994年からアイランドシティを開発し、博多湾に自然豊かで職住近接の新しいまちを生み出しました。

また国際会議にいち早く着目し、1981年には「福岡国際センター」と「福岡サンパレス」を相次いで開館させ、1995年には県内最大規模のアリーナ施設「マリノア福岡」、2003年には、「福岡国際会議場」をオー

ンさせます。国際会議を誘致し、世界から人や情報、ビジネスが集まり、交流する拠点を目指していたのです。

一方で、平地以外で都市化の規制を厳しく行い、緑や水を大切にしながら都市づくりを進めました。後世に身近な自然を残し、住みやすい街が創られることになったのです。



▲都心部の交通利便性



▲緑あふれる福岡都心部「大濠公園」

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

人と環境と都市活力の調和がとれた
アジアのリーダー都市へ

過去

る未来の姿を見つめてみました。

総合図書館所蔵資料



古代から現代へと脈々と続く国際交流

ハード整備の一方で、国際交流も積極的に進めます。1987年に基本構想を改正し、同年策定された第6次マスタープランでは、他都市に先がけてアジアに開かれたまちづくりを進めることとしました。当時の日本では、自治体や市民が国際交流を進めることはとても珍しいことでした。

1989年、福岡市は、まず市民が諸外国との交流を理解するため大規模な博覧会「アジア太平洋博覧会(よかトピア)」を開催しました。翌年には、国際文化交流の基盤とするためアジアの文化に功績のあった方を顕彰する「福岡アジア文化賞」を創設します。

また、1989年から、グローバル時代の平和と共生を見据え、地球市民として異文化に橋を架ける11歳のこども達を福岡に招き育成する事業「アジア太平洋こども会議・イン福岡」(APCC)を毎年開催します。1999年には、市民教育や学術文化の発展を目指しアジアの近現代美術作品を系統的に収集し展示する世界で唯一の美術館「福岡アジア美術館」もオープンさせます。

スポーツでも、1995年に「学生のためのオリンピック」と言われるユニバーシアードを誘致、開催しました。このことで、当時まだ知名度の低かった「フクオカ」を、将来を担う世界の若いアスリートが知るきっかけとなりました。



▲東アジア・東南アジアおよび南アジア地域を対象とし、25年間で99人の受賞者に顕彰「福岡アジア文化賞」(第25回 福岡アジア文化賞 報告書より)



▲広範で質の高いアジア近現代美術作品を展示する「福岡アジア美術館」

こうして、交通網の整備や自然を活かしたまちづくり、国際交流を進めていき、住みやすく、国内外から多くの人、モノ、ビジネスが集積するハブとなる国際都市へと成長していったのです。その結果、福岡市は、日本でいち早く、多文化性と、国際性を持つこととなり、観光客や、貿易、留学生、外国企業が増え続け、人やモノが集まる拠点として成長し続けています。



▲これまでに、アジア太平洋約50カ国・地域から26年間でのべ約1万人を招聘した「アジア太平洋こども会議・イン福岡(APCC)」



▲ユニバーシアードの開催にあわせて、競技場などが整備された東平尾公園

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

徹底解説

福岡市は次のステージへ。



アジアのリーダー都市へ

飛躍を遂げた現在の福岡市。その現状は？

こうして先人たちが築いた福岡市は、現在どうなっているのでしょうか？
 自然が豊かで住みやすいと評価され、人が集まり活気ある都市となりました。こうした福岡市には経済牽引の期待も高く、2014年には国家戦略特区にも指定されました。一方で、将来に向けた課題も残り、解決策を考えていかなければなりません。

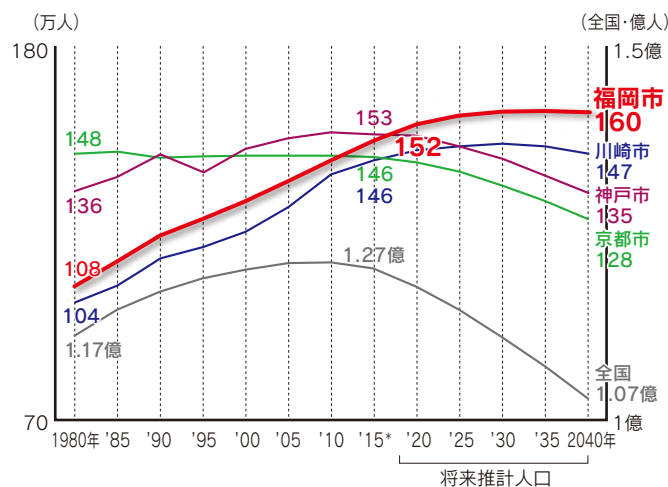
活力ある都市、伸び続ける人口



政令指定都市に仲間入りした1972年は、9位だった人口も、今では150万人を超え、かつて6大都市と呼ばれた京都市を抜き去り、神戸市をも超えようとしています。15歳から29歳の若者の人口比率も19.2%と日本一高く、街には活気があふれています。

また、コンパクトなまちづくりの結果、すぐ近くに山海の美しい自然があり、食材も豊かで、通勤時間が短いなど、国内外から「住みやすい」と評価される都市になりました。2014年に実施したアンケートでは、市民の95%が福岡市を「住みやすい」と回答し、また、2014年には、英国の情報誌「MONOCLE」の「世界で最も住みやすい都市トップ25」も10位に選ばれています。

福岡市と同規模都市の人口推移と将来推計人口



資料：国勢調査（～2010年実績値）*2015年人口は各市及び国立社会保障・人口問題研究所発表1月現在推計人口 京都市実績値は現在の市域のもの
 将来推計人口は、独自推計値を公表している福岡市、川崎市以外は国立社会保障・人口問題研究所推計値（京都市、神戸市、全国）
 *福岡市は2012年推計 川崎市は2010年推計 国立社会保障・人口問題研究所は2013年推計

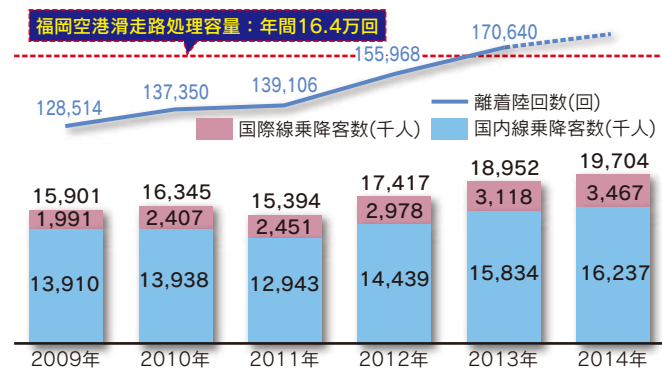
アジアとのゲートウェイとなった福岡空港。しかし容量が限界に。

アジアとの交流を積極的に図っていった結果、福岡市には、人、モノ、ビジネスが次々に集まって来るようになりました。

福岡空港は、年間の利用者数は1980年の約825万人から、2014年には約1970万人までに伸び、海外の18都市と航路を結んでいます。空港の発着回数は年々増え続け、滑走路1本あたりの離発着回数は日本一です。今後のアジアの発展を考えると、福岡空港の需要はますます伸びていくでしょう。

その一方で、その滑走路処理能力は限界に近づきつつあり、これ以上、飛行機の便が増やせないという状態に陥っています。

福岡空港航空機離着陸回数と乗降客数の推移



資料：空港管理状況調査(国土交通省)、処理容量…福岡県(国土交通省試算)
 *離着陸回数は着陸回数を2倍したもの
 *滑走路処理容量：定時性を保ちながら安定的な処理を可能とする数値(標準処理値)



日本一となった博多港 海上、陸上ともに混雑

では、海上輸送はどうでしょうか。福岡市が先を見据えて整備した博多港は、人の乗降数が21年連続日本一、国際海上コンテナ取り扱い個数も九州1位を誇

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

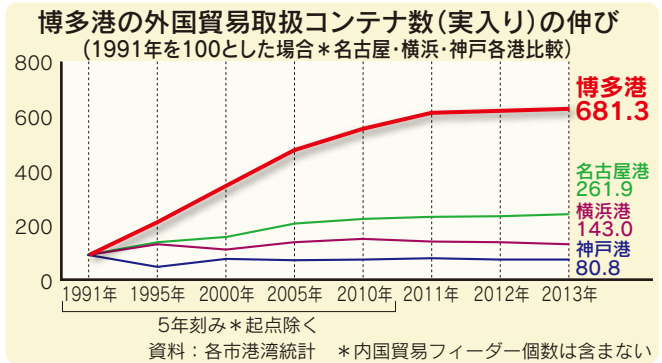
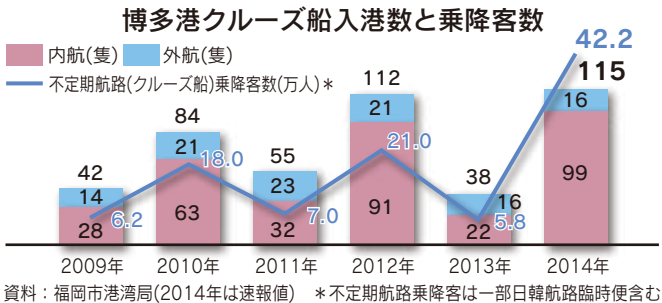
グローバルレポート

現在

人と環境と都市活力の調和がとれた アジアのリーダー都市へ

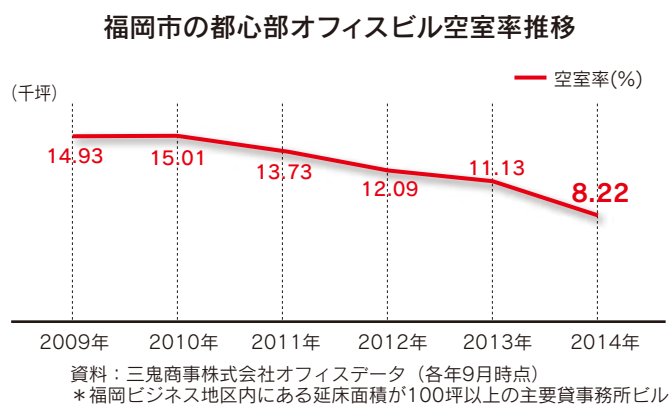
り、日本の拠点港となっています。

ところが、現在、大型クルーズ船の停泊場所が不足しており、コンテナ船のターミナルも満杯状態です。旅客、物流事業の発展に伴い、陸上の交通量も混雑しています。このままでは国際競争力の強化はもとより、太平洋側の他都市の港湾が被災したときなどのバックアップにも不安が残ります。



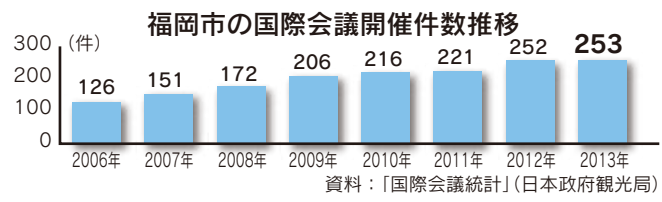
企業もどんどん集まっているが、 都心の開発に課題

現在、福岡市はビジネスの拠点を構える都市として国内外から着目され、多くの企業が本社や支社を構えるようになり、「創業特区」として、国家戦略特区の指定も受けました。ビジネス面でのさらなる成長を促すには、オフィス需要の拡大が必要です。ところが、福岡市は、航空法による福岡空港周辺の建物の高さ規制などで、都心のビルの新築や古いビルの建て替えが難しく築40年を越える古いビルが残っているのです。



国内有数のコンベンション しかし、容量不足で施設は満杯

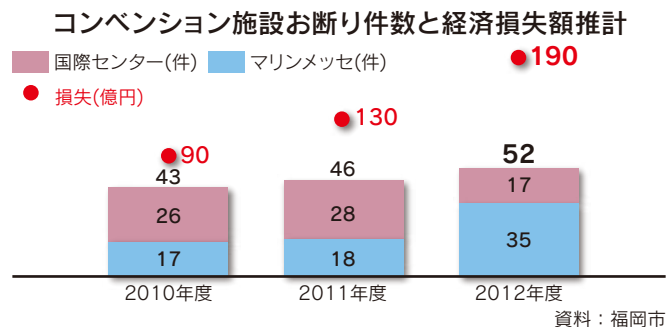
次に、国際コンベンションの現状です。コンベンションゾーンの整備により、福岡市は、日本でも有数のコンベンション都市となりました。2013年、福岡で開催された国際会議開催件数は、京都市や横浜市を上回り、5年続けて東京都に次ぐ全国第2位となっています。しかし、現在の福岡市のコンベンション施設はフル稼働状態で、海外からの高い需要に供給が追いついていないのです。2012年度には52件もの国際コンベンションを断っており、その経済損失は190億円とも言われています。



福岡市の主なコンベンション施設稼働率 (%)

施設	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
マリンメッセ福岡	81.5	81.5	82.3	90.4
福岡国際センター	78.2	88.1	86.9	85.7
福岡国際会議場	64.8	67.7	70.3	65.7

資料：福岡市



[参考]
福岡市の様々な統計データをイラストなどで紹介しているサイトです。
Fukuoka Facts 参考HP「Fukuoka Facts」
<http://facts.city.fukuoka.lg.jp/>

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

徹底解説

福岡市は次のステージへ。



アジアのリーダー都市へ

「アジアのリーダー都市」を目指し、次のステージへ

2012年福岡市は未来に向けた新しいビジョンを明確に示すため、新たなマスタープランを策定しました。100回を超えるワールドカフェの開催やソーシャルメディアも活用して、延べ1万人を超える市民が参加しました。現在、このプランを基に、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざし、まちづくりを進めています。次のステージへと歩き出した、わが街の“未来の姿”を思い描いてみましょう。



先人たちが未来を見据え、切り拓いてきた福岡市の交通網。今後、アジアの交通の要所としてさらに活躍するために、福岡空港と博多港の新たな整備が必要です。

2015年度、福岡空港では現在1本しかない滑走路の増設事業に着手します。滑走路1本でみると、福岡空港の発着回数は圧倒的に日本一で、1時間あたり約30便、つまり2分に1本のペースで離着陸がなされているという、世界でも超過密なスケジュールです。

また2015年5月には、大型クルーズ船の停泊場所が不足していた博多港中央ふ頭に新たに「クルーズセンター」がオープンするなど、博多港でも再整備プロジェクトが本格的に始動します。



▲福岡空港の滑走路増設・平行誘導路の二重化



都市機能が集積する天神・博多駅周辺、歴史や伝統・文化を感じる街並みが残る博多部、鴻臚館や福岡城趾がある緑豊かな大濠公園・舞鶴公園など、こうしたエリアが、もっと個性を生かしたコントラストを持つと、福岡市は住む人、働く人、訪れる人にとって、さらに魅力的な都市になるでしょう。



▲平成26年、歴史的な文化財が多く残る博多部に完成した「博多千年門」

◆ビジネスと賑わいを創出 「天神ビッグバン」始動

新しいプロジェクト「天神ビッグバン」がスタートします。その名のとおり新しい空間、雇用、起業を生み出すものです。福岡市は、空港が近く便利ですが、一方で建物の高さが規制で低く抑えられています。このたび、国家戦略特区に認定され、天神明治通り地区の高さ制限が緩和されました。このタイミングを逃すことなく、福岡市独自の規制緩和や施策を組み合わせ、ビルの建て替えや新築を促して

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

人と環境と都市活力の調和がとれた
アジアのリーダー都市へ



建設投資効果 約**2,900**億円

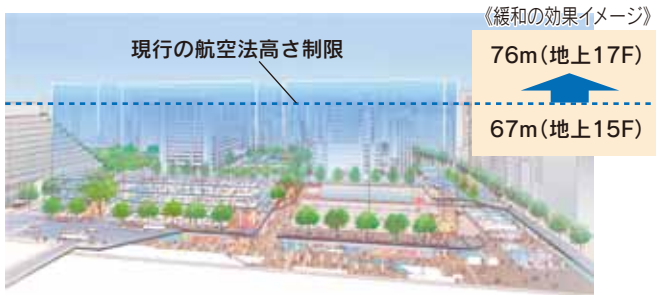


経済波及効果(毎年) 約**8,500**億円



雇用 約**57,200**人

▲天神ビックバン経済効果



▲まちづくりイメージ

Before



After



▲天神ストリートパーティー

いくものです。

そのほか、国家戦略特区では規制緩和により、道路を活用したイベント「天神ストリートパーティー」など開催され、さらに賑わいが出てきそうです。

◆空と海と建物が描く海辺空間を生かした「ウォーターフロント」

飽和状態となっているコンベンション機能を向上させるためには、新たな大型展示場が欠かせません。国内外からの海の玄関口でもあり、国際会議場などコンベンション施設が集まるこのエリアは、ホテルや賑わい施設などがここに進出すると、今後、より多くの「MICE」を呼び込むことができ、世界から注目される「MICE都市」となるでしょう。

◆時をわたり、人をつなぐ「セントラルパーク」で歴史・芸術文化に触れる

住民や働く人など多くの人たちにとって、緑を感じるオアシスが必要です。都心部でありながら、自然と触れ合える大濠公園と舞鶴公園を一体化して整備する「セントラルパーク」プロジェクトも開始しました。日本で唯一、二重に国史跡として指定されている福岡城と鴻臚館の史跡を復元、石垣や水辺を見通せる広場や一周できるジョギングコースの整備、さらには福岡市美術館がリニューアルされるなど、セントラルパーク自体が「広大なミュージアム空間」となって、歴史・芸術文化・観光の新しい福岡の顔となっていくでしょう。

◆交通ネットワークの拡充で市内の移動がますます便利に

こうした魅力ある福岡市のエリアを結ぶためには、福岡市の交通ネットワークを充実させる必要があります。地下鉄七隈線の天神南から博多駅間の延伸（2020年度完成予定）や、都市高速道路のアイランドシティ、福岡空港国内線への延伸が決まり、福岡市の交通網がさらに便利になることで、各エリアにアクセスしやすくなり、人々が行き交い、賑わいが広がるでしょう。

巻頭メッセージ
キーパーソンインタビュー
クリエイターインタビュー
解説「FUKUOKA NEXT」
データは語る
グローバルレポート

徹底解説

福岡市は次のステージへ。



アジアのリーダー都市へ

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート



世界に誇れる「環境」

持続可能な循環型社会を目指す「水素リーダー都市」へ

福岡市は発展を続けながらも、環境を守る活動に力を入れてきました。福岡市が開発した、低コストで環境に優しい「ゴミ」の埋め立て技術は「福岡方式」と呼ばれ、日本各地をはじめ世界13か国で採用されています。また、「節水都市」でもある福岡市。市が持つ「再生水プラント」はアジア最大級で、福岡地区水道企業団の「海水淡水化施設」は日本最大の規模を誇っています。

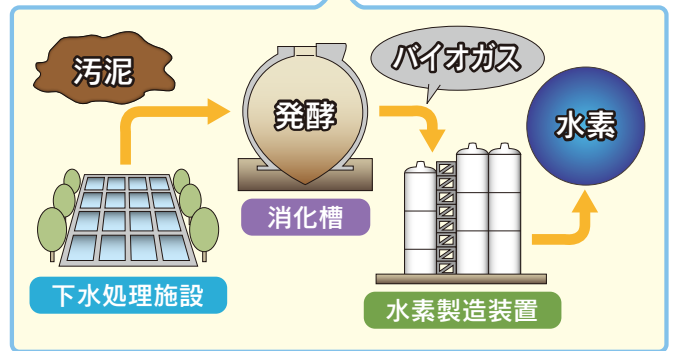
さらに、2015年4月には、先進的な取り組みである「水素リーダー都市プロジェクト」が始動します。これは、下水汚泥を処理する過程で発生するバイオガスから水素を作り、エコカー「燃料電池自動車（FCV）」へ供給するという世界初の取り組みです。水素で走るFCVは、走行中CO₂や有害物質は一切出さず、3分で満タンになり、約650キロメートル走るという優れもの。世界から注目されている次世代自動車です。



▲燃料電池自動車トヨタMIRAI

福岡市は、下水汚泥から作り出すクリーンでエコロジ的な燃料で水素社会の実現に貢献し、環境に負荷をかけない循環型社会を目指しながら、魅力溢れる都市へと変貌をとげるでしょう。

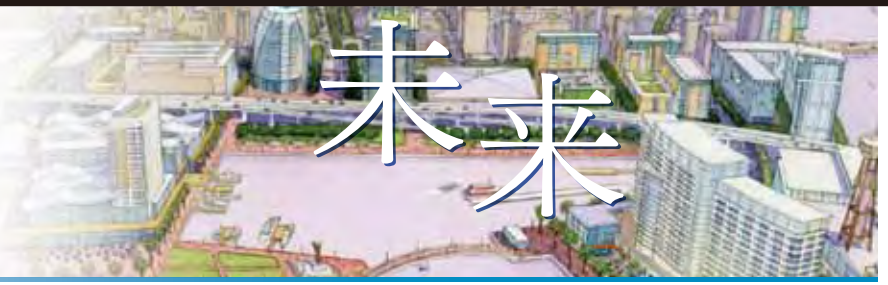
下水汚泥から水素が出来るまで



福岡市の都市づくりの特徴 「人」との調和

「ユニバーサル都市・福岡」で、思いやりのある心豊かな都市へ

福岡市の都市づくりは、「都市活力」と「環境」に加え、「人」との調和を重視していることが大きな特徴の一つです。誰もが思いやりを持ち、すべての人に優しいまちづくり「みんながやさしい みんなにやさしい『ユニバーサル都市・福岡』」を進めています。市民にユニバーサルデザイン(UD)の考え方を広げ、思いやりの心を育むなどソフト面にも力を入れて取り組んでいます。2015年度には、ノンステップバスの導入、駅のバリアフリー化の整備、都心部にベンチを設置する「まちなかベンチプロジェクト」を行い、人と調和した豊かな福岡市になるでしょう。



未来

人と環境と都市活力の調和がとれた
アジアのリーダー都市へ

地域の絆や子育ての環境づくりで 一人ひとりが元気に輝くまちへ

市民一人ひとりが心豊かで元気に輝くまちとなっていくために、人々が支え合う「強い絆の地域づくり」や、子育てしやすい環境づくりを進めています。

高齢者の生活支援として、高齢者へのタクシー券交付が始まり、ICT(情報・通信に関する技術)を活用した高齢者の「見守り」などを行う「要介護高齢者在宅生活支援モデル事業」もスタートします。

安心して子育てができる環境づくりの一つとして、保育需要への対応と保育の質の向上を積極的に進めるとともに、現在小学6年生までが対象の入院医療費の助成を、中学3年生までに拡大します。また、児童福祉士を増員して、こども総合相談センターの体制を強化し、子ども家庭支援センターの増設も予定。英語教育の充実による学力向上や、芸術体験による情操教育、児童生徒が中心となった「いじめゼロプロジェクト」なども進められています。



▲ユニバーサル都市・福岡
シンボルマーク



UD教材(副読本)▶
授業を通してUDについて理解する
ために小学4年生を対象に配布



▲ノンステップバス



▲ユニバーサルデザイン体験

市とともに成長戦略に取り組む 「福岡地域戦略推進協議会(Fukuoka D.C.)」

これからの都市の成長には、地域の課題を解決し、新たなイノベーションを起こしていくための産学官民のプラットフォームが必要です。行政が許可や認可を行い、実際にプレーヤーとなるのは民間企業で、行政と民間企業が力を合わせて取り組んでいます。「福岡地域戦略推進協議会(Fukuoka D.C.)」は、産学官民が連携し、福岡市と連動して福岡都市圏の成長戦略に取り組む、全国でも先駆的な組織です。2011年の設立以来、国へ国家戦略特区の提案を市と共同で行うほか、「福岡市マスタープラン」の策定に係る意見提案などを行ってきました。現在「イノベーションスタジオ福岡」などの事業を福岡市とともに進めています。今後も福岡市との連携を深めながら、福岡都市圏の大きな成長と発展をもたらす活動を展開していきます。



▲ウォーターフロントの機能更新イメージ

巻頭メッセージ

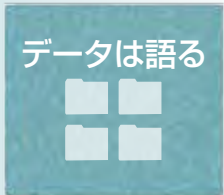
キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート



国内東西二拠点時代へ

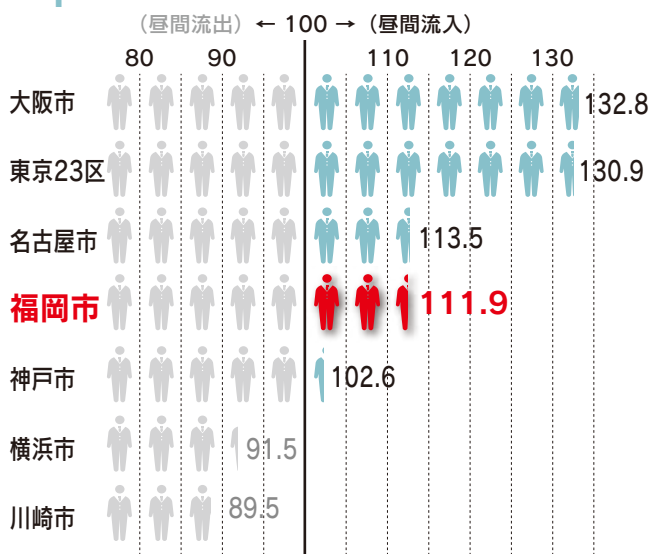
●国内三大都市と福岡市の趨勢からみた次代をリードする都市の可能性

三大都市をしのぐ昼間人口の伸び

日本では、長らく東京、大阪、名古屋の「三大都市」が国内をリードしてきた。一方、福岡市は、近年、人口の増加率が国内大都市で最も高くなるなど、地域における拠点性はさらに強まる傾向にある。

就業や就学の流出入を示す昼間人口比率(i)は、福岡市は三大都市に次ぐ水準となっている。政令指定都市でも、東京に近い横浜市や川崎市などは流出傾向が顕著だが(図1・表1)福岡市の昼間人口の増加率は、三大都市をも上回る(図2)。

図1 昼間人口比率7都市比較



資料: 国勢調査(2010年)

表1 4都市の昼間人口・夜間人口

	昼間人口	夜間人口	昼間人口比率 (人・%)
東京23区	11,711,537	8,945,695	130.9
大阪市	3,538,576	2,665,314	132.8
横浜市	3,375,330	3,688,773	91.5
名古屋市	2,569,376	2,263,894	113.5
福岡市	1,637,813	1,463,743	111.9
神戸市	1,583,765	1,544,200	102.6
川崎市	1,275,628	1,425,512	89.5

資料: 国勢調査(2010年)

日本は、既に人口減少社会を迎えているが、海外では、アジア各地には巨大都市群が数多く生まれ、グローバルな人や経済の動きの中で、拠点となる都市及びそのネットワークの再編が、世界規模で進んでいるとみられる。

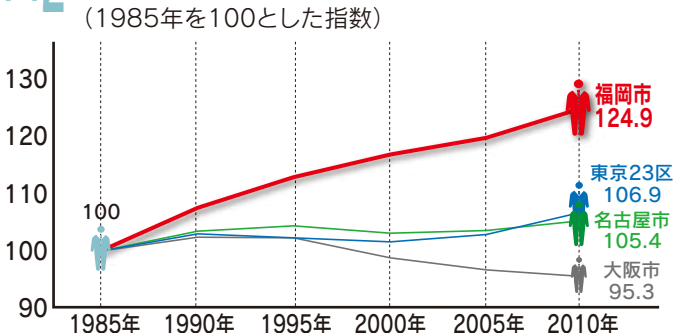
既に東京以外の国内の都市は、アジアの巨大都市には規模では及ばず、国内三大都市、地方の拠点都市という強みだけでは、世界で十分な存在感を発揮できなくなっており、各都市がその特性をいかした役割や機能をいかし、生き残りを図る時代となっている。

三大都市は、将来的にはリニア中央新幹線によって1時間あまりで結ばれ、拠点の集約化が進むことも考えられるが、福岡市は、今後もしばらく人口増が見込まれる希有な都市であることや、東京から離れていること、アジアと日本のネットワーク上の重要な位置にあることなど、グローバルな都市間ネットワーク再編の中で、拠点性を維持する要素を持っている。

海外から多くの人が集まる福岡市

一方、アジアの大都市圏の経済活動は、域内総生産(ii)において第二次産業(製造業・建設業)が一定の規模であるのに対し、福岡市は、単独でみた場合には、9割以上がサービス業による(図3)。1人あたり域内生産額は、シンガポールなど高水準な都市はあるものの、その他多くのアジアの都市と比較しても高い(図4)。それだけ「人」が生み出す付加価値が大きいことを示しており、クリエイティブな産業構造の一端も垣間見える。

図2 昼間人口の伸び率【4都市比較】



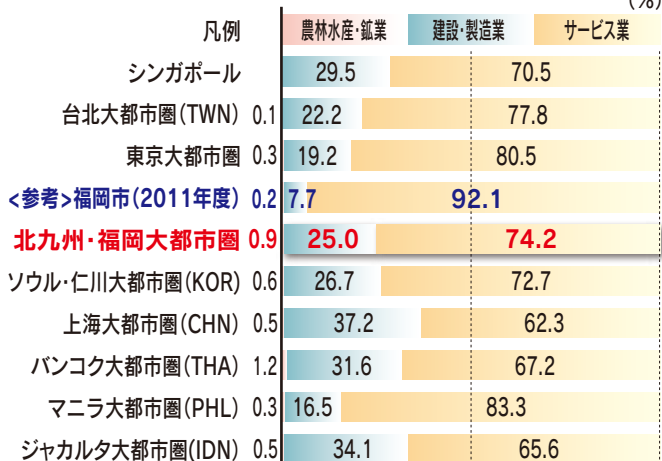
資料: 国勢調査

(公財)福岡アジア都市研究所
情報戦略室 研究主査
畠山 尚久

福岡市は、外国人も増加しており、伸び率は三大都市を上回る(図5)。このような状況を反映し、福岡市には、外国人に対する日本語教育機関も、相対的にみて多い(図6)。新しい都市間ネットワークの中で、海外から多くの人材が福岡市に集まり、価値創造に寄与する傾向は、今後ますます強くなると考えられる。

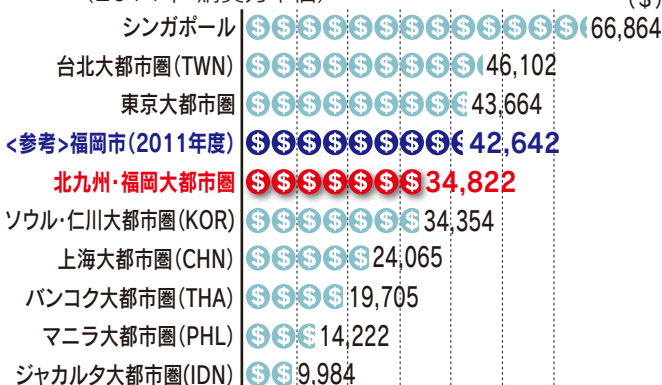
近年、海外の首都やメガシティではない地方都市からIT分野の世界企業が生まれるなど、都市が、規模でリードする時代から、そこに住む人が能力を生かし、高い付加価値を創造する場としての重要性が増しつつある。

図3 アジア主要大都市圏の産業類別GRP構成比比較 (%)



資料:Global Metro Monitor 2014(Brookings Institution), 大都市圏、産業分類は資料元の設定による
* GRP: Gross Regional Product(域内総生産)
* 福岡市数値は2011年度の市内総生産値(名目)の産業活動別割合を資料元に合わせて括り直したもの

図4 アジア主要大都市圏1人あたりGRP比較 (2014年・購買力平価) (\$)

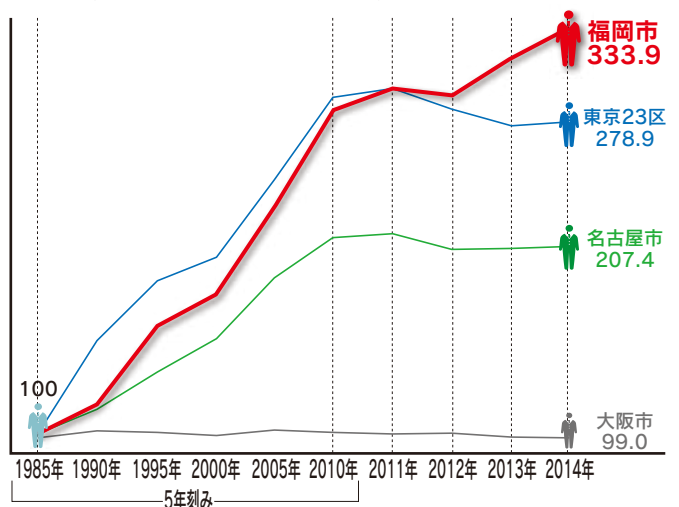


資料:Global Metro Monitor 2014(Brookings Institution), * 購買力平価とは国同士のインフレ格差から物価を均衡させる為替相場を算出するもの
* 福岡市数値は2011年度の市内総生産値(名目)を2011年推計人口で除した購買力平価(OECD)

次代をリードする、勢いある福岡市

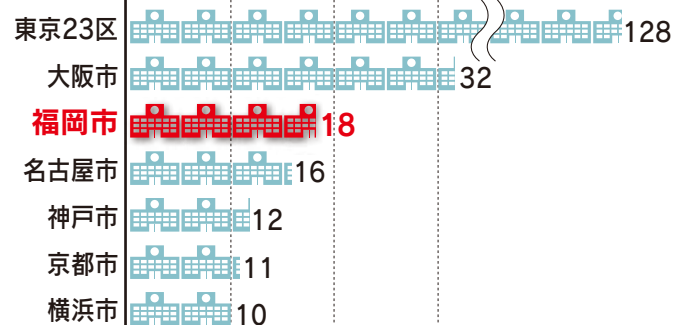
福岡市が、都市の規模は小さいながらも、さまざまな面において三大都市を上回る勢いがみられることは、こうした時代の変化、次代の都市像とも無関係ではないと考えられる。住みやすさやコンパクトな都市の強みで、国内においては、東京とは異なる役割で、日本、そしてアジアをリードしていく一翼を担う可能性を有している。

図5 外国人人口の伸び率【4都市比較】 (1985年を100とした指数)



資料:各機関統計
* 原則として外国人数:2011年以前は「外国人登録台帳」、2012年以降は「住民基本台帳」による
* 都市によって統計時点月次は異なる

図6 日本語教育機関数上位大都市 (校)



資料:日本語教育機関振興協会の調査・統計データ
* 都市指定検索による日本語教育機関該当件数(2015年2月閲覧)

(i) 昼間人口比率:常住人口(夜間人口)100人あたりの、通勤・通学等により流出した昼間人口の割合
(ii) 域内総生産:都市圏や市など、一定の地域内で生産された付加価値額

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエーターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

Global Report

01

長期ビジョンとして「アジアのリーダー都市」を実現するために

(公財)福岡アジア都市研究所
 首席主任研究員・情報戦略室長

久保 隆行

Kubo Takayuki

Global

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

みんなが描いた福岡市の未来

2011年5月、高島市長の呼びかけによって、「アジアのリーダー都市ふくおか!プロジェクト」の名のもと市民参加によって福岡市の25年後のビジョンづくりが進められた。プロジェクトでは、フォーラム、ワークショップ、SNS、論文公募やインタビューによって、市民に都市の将来像を考える機会が提供された。半年にわたって収集されたアイデアは、『みんなが描いた福岡市の未来』として取りまとめられ、福岡の25年後の都市像が12の分野で描かれた。多くの意見が集約されているにもかかわらず、キラリと輝く提言を随所から読みとることができる。プロジェクト専用HPへのアクセスは10万を超え、市民の福岡の未来への関心の高さをうかがわせた。

福岡市の長期ビジョン

日本の地方自治体は、長期ビジョンにあたる基本構想を策定することが国によって義務付けられてきた。2011年、地方分権の一環として地方自治法が改正され、地方自治体は基本構想を任意で策定することが可能となった。法改正から間もない2012年、福岡市は基本構想を基本計画とともに従来の形式に従い策定した。

『福岡市基本構想』には「25年後」や「アジアのリー

ダー都市」といったキーワードは見当たらないが、10年後を目標とした『福岡市基本計画』には「アジアのリーダー都市」を目指すことが基本姿勢として記載されている。基本計画には、基本構想を実現するための8つの目標に即した86の成果指標(KPI)が設定され、目標達成への方針が示されている。基本構想と基本計画をセットにすることによって、長期のビジョンを実現するために、次の10年間で何をすべきかがここに示されている。『みんなが描いた福岡市の未来』は、その下敷きとして活かされている。

世界の先進都市が描く長期ビジョン

世界では、人口、経済、環境などの分野で前世紀では予測されなかった変動が生じており、都市は大きな影響を受けている。将来の見通しが不確実になるなかで、都市の長期ビジョンを描くことは困難である。にもかかわらず、世界の先進都市は、20年～30年にわたる長期ビジョンを描いている。

ニューヨーク市は2007年、マイケル・ブルームバーグ前市長の強い指導力のもと、2030年をターゲットとしたPlaNYCを策定した。“Greener, Greater NY”をビジョンとして掲げ、ニューヨークの持続的発展を目指し、環境分野に重点を置いて取りまとめた。2011年、ロ



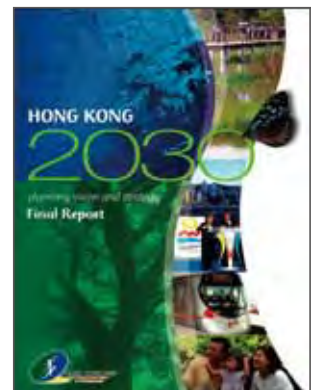
『みんなが描いた福岡市の未来』
福岡市、2011年



『福岡市基本構想・基本計画』
福岡市、2012年

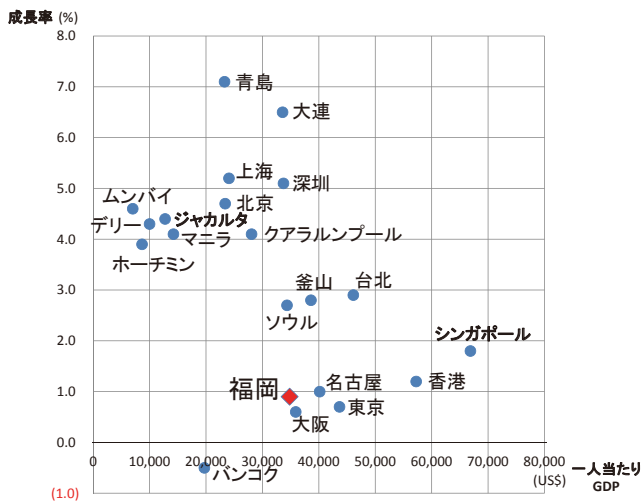


“PlaNYC” ニューヨーク市
2007年



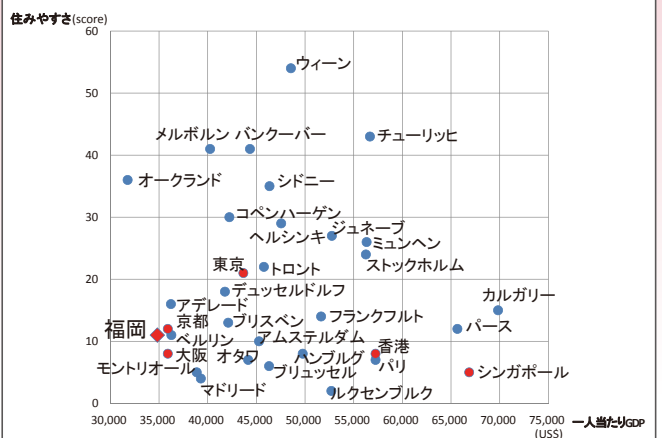
“Hong Kong 2030”
香港特別行政区政府、2007年

アジアの都市：成長率×一人当たりGDP



データ出所：“Global Metro Monitor 2014”ブルッキングス研究所
 注記：一人当たりGDPは2014年都市圏PPPデータ、成長率は2013-2014年一人当たりGDP成長率、福岡は、九州北部都市圏データ

世界の都市：住みやすさスコア×一人当たりGDP



データ出所：“Global Metro Monitor 2014”ブルッキングス研究所、MONOCLE Quality of Life Survey(2014)、MERCER Quality of Living Survey(2014)、EIU Global Liveability Ranking(2010)
 注記：一人当たりGDPは2014年都市圏PPPデータ、福岡は九州北部都市圏データ、赤印はアジアの都市、住みやすさスコアは各ランキングの上位20都市の1位を20点、20位を1点として付与したスコアの合計値

ンドン市長のボリス・ジョンソン氏は、The London Planを2004年以来更新し、2031年をターゲットにロンドンの世界で最も優れた都市として発展させるビジョンを示した。香港においても2007年にHong Kong 2030 Planning Vision and Strategyが策定され、シンガポールではConcept Plan 2011において2030年をターゲットに人口を150万増加させるビジョンが描かれている。

長期ビジョンを描いているのは第1級の世界都市ばかりではない。シアトル・ピュージェットサウンド地域は、Vision 2040を、メルボルン都市圏は、Plan Melbourne (2050)を策定し、都市づくりの戦略的なガイドラインとしている。

「アジアのリーダー都市」となるために

福岡市が「アジアのリーダー都市」を実現するには、基本計画の目標設定10年は短いように思う。基本計画の成果指標に含まれていない経済指標をアジアで比較してみると、福岡の一人当たりGDPはアジアでトップではない。経済成長率は中国の新興都市が圧倒している。このポジションを10年で好転することは難しい。

もちろん、経済力が強いことだけがリーダー都市の資質ではない。経済成長と住みやすさを両立させた都市こそが、リーダーとして尊敬に値する。福岡は、MONOCLEの住みやすい都市に選定されているが、MERCERやEIUによる同様のランキングにFukuokaの名前はない。3つのランキングの上位20都市を順位に応じてスコアを付与して合計した住みやすさスコアと一人当たりGDPを比較したところ、2つの軸での評価の

高さを両立している都市は複数存在する。福岡がこれらの都市のレンジに入ったとき、「アジアのリーダー都市」の座がみえてくる。長期ビジョンとして、先に挙げた世界の都市のように20年以上かけて戦略的に実現を目指すべきではないか。

ネクスト・ステージからビジョンへ

過去10年間をみると、福岡市の実質GDPは横ばいである。一方、人口は増加したので一人当たりGDPは下がった。従業者数も増加したものの、労働生産性は下がったことになる。将来推計では2035年まで人口増加が続くとされるなかで、一人当たりGDPを維持し、さらに向上させなければならない。その方策は、労働参加率と労働生産性を上昇させることにほかならない。

福岡市は、国家戦略特区というブースターを得て異次元のネクスト・ステージへと移行した。労働参加率と労働生産性を上昇させて経済成長を軌道に乗せるチャンスである。ライバルとなる新興都市は急速に発展しているが、このペースが20年以上持続するとは思わない。成熟期にある福岡は、強い経済と高い生活の質の両立を目指した緩やかな発展を積み重ねれば良い。四半世紀あれば、その間に世代交代は進み、老朽化した都市の更新も進むであろう。25年後には福岡は現在では考えられないような革新的な都市へ発展を遂げている可能性は大いにある。そのための戦略的なガイドラインとして、福岡市の長期ビジョンを世界を視野に進化させ続けなければならない。

付記：本稿作成にあたり、「アジアのリーダー都市ふくおか」プロジェクト事務局業務を担当された前福岡アジア都市研究所主任研究員の天野宏欣氏に協力をいただきました。

02 過去と未来の体験ができる福岡市



(公財)福岡アジア都市研究所
主任研究員
唐寅 Tang Yin

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

中国人が感じる福岡市の魅力

中国人にとって福岡市は豊富な魅力がある都市だ。日本最古の稲作や板付遺跡、大陸との交流を示す金印、古代日本の迎賓館であった鴻臚館、日本最初の禅寺である聖福寺など歴史を感じさせる観光地だけでなく、ここでしか味わえない新鮮な海産物や九州から集められた上質な肉・野菜を使ったもつ鍋や豚骨ラーメンなどのグルメ、日本一の人出を誇るどんたくや山笠など、その起源や由来、それにまつわる伝説などを整理して積極的に発信すれば、もっと素晴らしい観光資源になる。

リピータになって何回も訪ねてみたくなる場所には、ランドマークとともに、物語も欠かせない。ことに福岡は、中国人から見てもストーリー性を感じさせる数少ない都市だ。

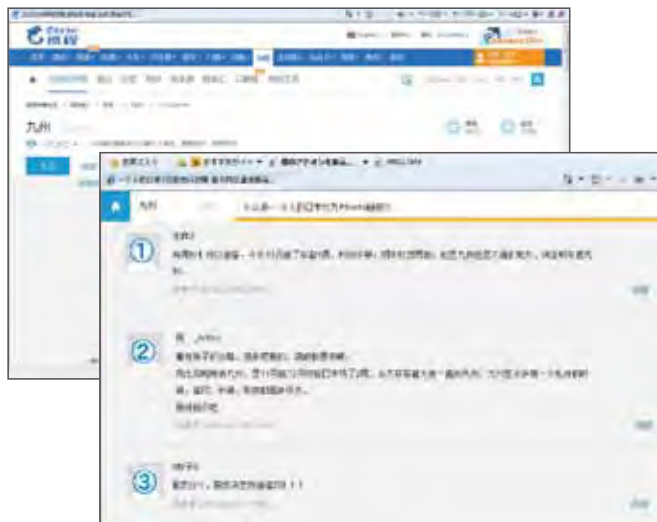
また福岡市は面積340km²、人口152万人のコンパクトシティで、都心のビルはほとんど15階以下。自転車が街中を堂々と行き来し、30分もあれば、山にも海にも行ける。地上地下に集積する多彩なブ

▼ソーシャルメディア www.lvmama.com



ランドショップ、市内各地に点在する文化施設、そして至る所に立ち並ぶ飲食店舗。アジア大陸に最も近い大都市である福岡、その魅力ははずばり、「高くない人口密度、やさしいヒューマンスケール、快適なスピード感、スマートなもてなし」だ。

先端技術を凝縮した数々の生活用品や、思いやりのあるサービス、屠蘇や曲水の宴など中国の伝統文化がパッチワークのように保全されている日本ならではの観光ができるだけでなく、また北京オリンピック、上海万博の開催、高速鉄道（新幹線）など中国はかつての日本と同じような経済成長と近代化



▲中国最大の旅行サイトCtrip携程網のクチコミランキング「世界最高の長期休暇旅行目的地2014」ベストテンに、九州が選ばれた(10位)福岡市などの観光情報が記載されたサイトを見ての口コミ

- ① 素晴らしい。参考になった。今年11月に京都に行ったけど、時間が足りなくて、来年また行きたい。でも九州もよさそうで、来年九州に行くこと決めた。
- ② 読み終えて、感無量で、涙いっぱい。11月末から12月にかけて日本に2週間滞在した。東京、京都から九州。九州には1週間ぐらいいた。福岡、長崎、別府、超懐かしいな。
- ③ これを読んで、計画変更して、断然福岡に行くこと決定!!!

(URC訳)



銀行カード
China union pay

▲中国人が買い物に利用する銀連カードは、日本でいうデビットカードだ

の道を辿っており、中国人旅行者は日本旅行を通して自国の将来を一早く見ることもできる。

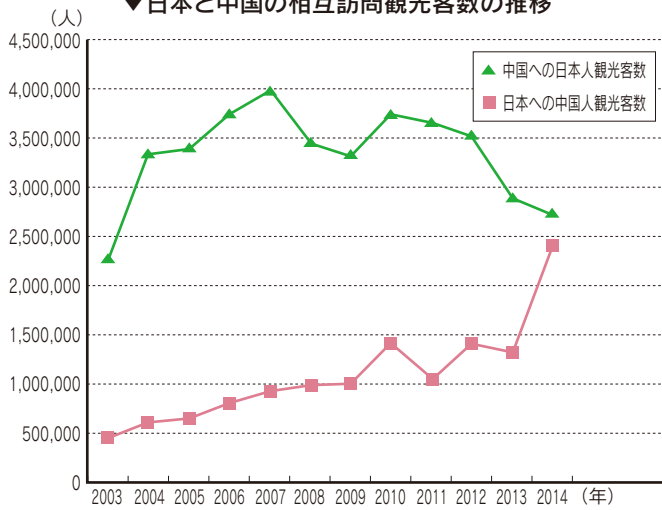
このように福岡市は中国人が過去と未来を同時に体験できる都市だ。押し寄せてくる旅行者をとらえて、ビジネスを拡大させれば、地域活性化ができるだろう。

中国からの訪日旅行者数の増減

中国から訪日客は増えているのだろうか。これまで、入国審査が厳しく日本を旅行できる中国人は限られていた。今でも入国許可を得るために多くの中国人が査証申請の際に5万元（百万円弱）の保証金または自宅の権利書を一時的に旅行代理店に預けなければならないが、それでも増え続けている。

日中の外交情勢や自然災害の影響で減少しているのではないと思われるかもしれない。しかし円安、ビザ緩和、免税範囲の拡大など、観光立国の施策が功を奏し、昨年ついに史上最高の約240万人に達し、訪中した日本人約270万人に肉薄するようになった。今後も中国の個人所得の向上や人民元の切り上げ基調が続き、2020年には、海外旅行者数の5%に相当する900万人もの中国人旅行者が日本を訪れるだろうと予測されている（CLSA証券消費者レポート、今年1月22日発表）。

▼日本と中国の相互訪問観光客数の推移



▲中国人を歓迎する銀連カードのマークが入っている案内

観光ニーズの多様化

しかし中国から日本への観光客が増えても団体ツアーは、東京関西圏に集中しているのでは？と思われるかもしれない。だが小グループや個人の旅行者の場合、地方を目的地として選ぶことが確実に増えている。

観光ニーズの多様化、テーマ旅行の人気向上、家族旅行や親子ツアーの繁盛、そしてWechat（微信）といったソーシャルメディアの利用で、ここ数年、中国人旅行者をめぐる状況は大きく様変わりしているのだ。

今まで東京、関西に集中していた「爆買」団体ツアーも、やがて家族や友人との小グループ旅行に変容し、美しい自然、新鮮な食材、比較的安い滞在コストを求めて九州福岡に必ず訪ねて来るようになるだろう。

その時福岡市で過去と未来の豊富な魅力を感じるに違いない。

▼中国人に人気の高い日本商品ベストテン

1. 温水洗浄便座
2. 電気炊飯器
3. 魔法瓶水筒
4. 美白剤
5. 酵素
6. チョコレート(「白い恋人」)
7. 馬油
8. 三宅一生のバッグ
9. ランドセル
10. 電気髭剃り



<http://www.weibo.com/u/2387353802>

東京新青年微信号: tokyomen
2月16日「東京新青年」

03

韓国から見る不動産の人気を誇る福岡市

(公財)福岡アジア都市研究所
研究主査

柳 基憲

Ryu Kiheon

Korea



巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

福岡市は、「グローバル創業・雇用創出特区」として、外国人の創業・就業促進や外国人にも暮らしやすいまちづくりを進めている。そこで、福岡における韓国人観光客及び定住者、韓国系企業の動向から福岡市の魅力について調べてみた。

韓国人観光客 人気ナンバーワン都市 福岡市

フェイスブックやツイッターといったソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)やブログを利用する人が多い韓国で、韓国のオンライン旅行社による訪日送客数1位の「旅行博士」では、2014年に同社の利用者が訪問した日本の都市は、福岡(39%)、大阪(21%)、東京(10%)、沖縄(9%)、札幌(6%)の順であった(図1)。福岡市の人気の背景には、国際空港が市内に立地し都心へのアクセス時間が地下鉄で10分あまりと便利であることや、街中に韓国語サインが多いこと、飲食店内に韓国語メニューが用意されているところが多いなどがある。また、韓国では福岡市のグルメやショッピングなどを紹介しているブログも多く、事前情報収集が容易であることも人気の理由の一つであるという。

さらに、福岡市観光統計によると、平成25年の福岡空港・博多港からの外国人入国者数(実数)は、90万人

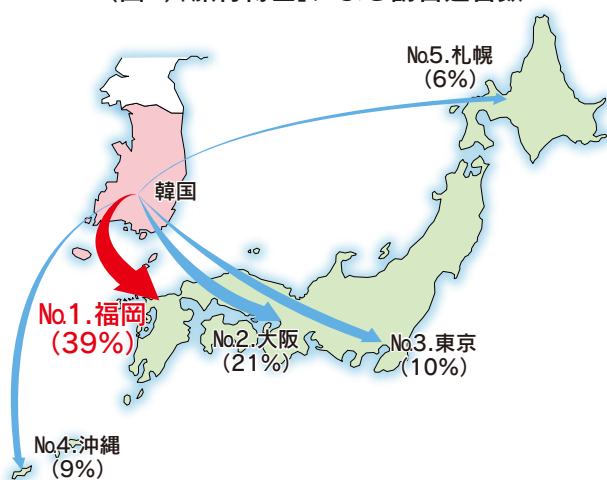
で、そのうち韓国人が占める割合は、約53万人の59.3%と断然トップである。次に、台湾15.6%、中国7.6%、香港4.6%の順である(図2)。こういった背景には、福岡市のプロモーション強化や円安に、近年格安航空会社(LCC)の増加による「韓国-福岡線」の増便(現在のLCCとしては、ティーウェイ航空、チェジュ航空、ジンエアー、エアプサン)の4社がある)と、それに伴う韓国国内での観光関連企業のアウトバウンド活動が大きく寄与していると考えられる。

定住者も増加傾向

韓国からの観光客だけではなく、定住者数も右肩上がりの傾向である。その一方で、福岡進出の韓国系企業の殆どは、韓国と九州を行き来する観光客を対象とする業種、例えば、運輸、宿泊などが多く、九州内の市場そのものをターゲットにする企業は多いとは言えない。

法務省の在留外国人統計からみると、2014年6月現在の各都道府県における在留韓国(韓国・朝鮮)人数は、大阪府(116,182名)、東京都(97,433名)、兵庫県(47,273名)、愛知県(35,584名)、神奈川県(30,218名)、福岡県(17,474名)の順である。福岡県における在留韓国人の数は、埼玉県(17,322名)や千葉県(16,319名)の在留韓国人の数とほぼ同じ規模であ

(図1)「旅行博士」による訪日送客数



ブログ

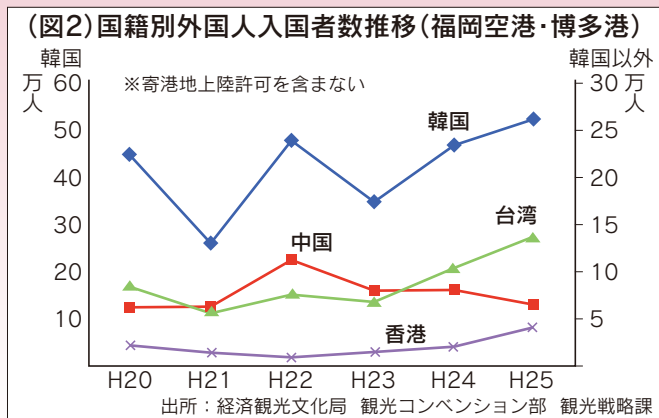


- 1 福岡は日本の風格が感じられるいいところですよ。美味しい食べ物がたくさんあるよ。
- 2 わー、最後の写真の中に入りたい!
- 3 福岡の有名なコースは全部回ったよ。帰国おめでとうございます。なかでも、中洲の川沿いで楽しむ一息は最高だよ。

(写真1)
韓国における福岡に関するブログの例
(魅力あふれる福岡)



出所
<http://silver7493.blog.me/>
140141548250



る。この3地域の在留韓国人数を在留資格別に比べてみると、福岡県では他の2地域に比べ、「教授」「企業内転勤」「留学」の在留資格を有する者が多い一方、「投資・経営」「技術」「人文知識・国際業務」の在留資格を有する者が比較的小さい。

福岡県における在留韓国人の「就労ビザ」の取得者はここ数年増加傾向にあり、2014年には、902名が県内で就労活動に携わっている(図3)。2006年から2014年までの推移からみると、「投資・経営」「人文知識・国際業務」「特定活動」の増加が著しい。

韓国企業の対日投資の現況

これまでの韓国からの全世界投資金額の日本シェアは約2%で、国別では12位である。韓国の対日投資を業種別にみると、「卸業及び小売業27%」「製造業25%」「出版・映像・放送通信及び情報サービス業16%」「不動産及び賃貸業12%」「芸術・スポーツ及び余暇関連サービス業8%」順である。さらに日本地域別の韓国企業数をみると、2013年には東京都356社、大阪府80社、福岡県19社などの順である。

駐日韓国企業連合会と韓国貿易協会の2つのリストから、2015年2月、福岡県の企業を抽出すると、その殆どが福岡市に立地しており、韓国に本社を持つ大手企

業の支店や事務所が多く、業種としては、運輸、貿易・製造、金融、宿泊などで、観光客を対象としたものが多いことがうかがえる。

福岡市の魅力

近年の動きとしては、福岡は、韓国からのニューカマー(※1)の定着が目立ってきている。彼らは、今後福岡を拠点とするビジネスチャンスに注目し、お互いに協力するケースが増えつつあることが今回の調査で確認できた。彼らが福岡を好む理由としては、以下の魅力が考えられる。

①人口の増加

韓国でも福岡市は人口が増えているということに注目しており、秘められた成長性に期待できるので、不動産などを購入する人もいる。

②老後の生活の候補地

経済的に裕福で福岡を良く知っている人の中では、老後の生活の候補地としてマンションが安い、物価が安いということを理由に福岡を選ぶ人が増えている。

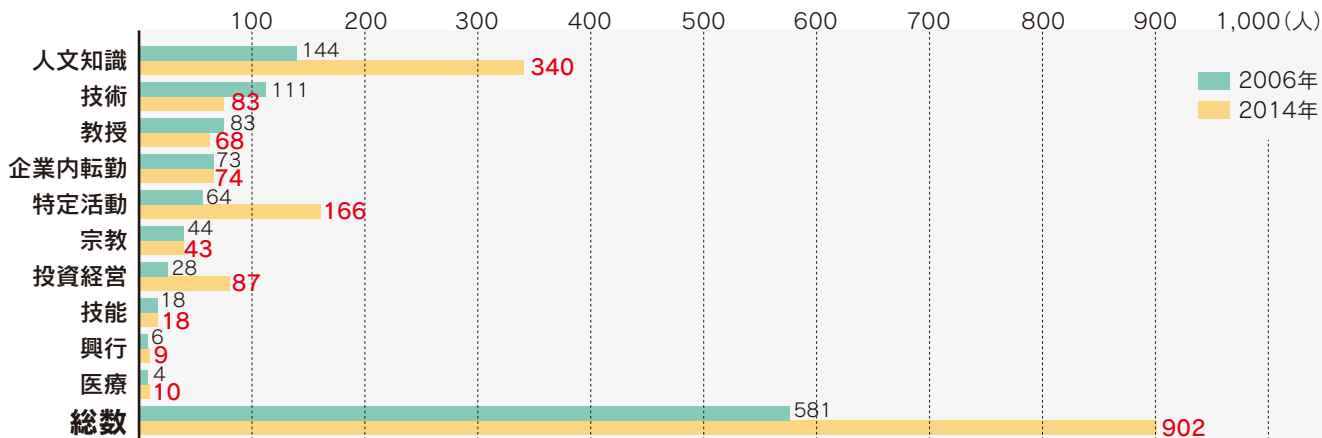
③韓国人同士の協力

2012年「在日本九州韓国人連合会」が福岡市に創設され、ニューカマーの日本定着に関する相談会や交流会、福岡の韓国人次世代貿易スクールなどサポートされ始めている。

観光のインターネットコミュニティで、福岡市の魅力が口コミで多く伝わっており、今後ニューカマーに福岡市の魅力がさらに共有されれば、新しいビジネスの動きにつながるだろう。

※1 1980年代以降、日本にきた外国人で、長期滞在を目的とした人のこと。

(図3) 福岡県における在留韓国(韓国・朝鮮)人の『就労ビザ』の取得状況の推移



※人文知識：通訳、デザイナー、私企業の語学教師等 技術：機械工学等の技術者等
 特定活動：ワーキング・ホリデー、経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補等 技能：外国料理の調理師、スポーツ指導者等
 出所：法務省

巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

04

香港における「遊日ブーム」

～行ってみたいから、住んでみたい、働いてみたい福岡へ

(公財)福岡アジア都市研究所

研究スタッフ

王 瑩瑩

Wini Wong



巻頭メッセージ

キーパーソンインタビュー

クリエイターインタビュー

解説「FUKUOKA NEXT」

データは語る

グローバルレポート

「遊日ブーム」に沸く香港

日本へのLCCの増加と円安を背景に、香港はいま、「遊日ブーム(訪日ブーム)」に沸いている。JNTO(日本政府観光局)が発表した2014年の国籍別訪日外客数統計によれば、香港籍の訪日外客数は92.5万人に達した。これは、香港人口の約13%にあたる驚異的な数値である。昨年だけでも香港人の7~8人に1人は日本を訪問したということであり、筆者もその一人である。

日本で良く見かける香港の観光情報と同様に、香港での日本の観光情報はじつに豊富だ。書店では、「東京」、「京都」、「九州」、「北海道」のように、国名でなく地域名毎にガイドブックが販売されている。どのガイドブックも、現在最も流行っている観光スポットを紹介し、記事は広東語の横に日本語を併記して、旅先でもガイドブックを直接見せながらコミュニケーションが取れるように工夫してある。FACEBOOKやYOUTUBEなどで配信される日本の地域を紹介するコンテンツも豊富であり、若者の間で大きく普及している。旅行先としては、屋久島や白川郷などの世界遺産が香港人の間でとくに人気が高い。

香港では日本食は以前からブームであり、「一蘭ラーメン」、「屋台」、「牡蠣」などは福岡名物として有名である。日本のファッションも人気があり、最近では「梨花髪型」が流行した。アニメでは「進撃の巨人」が、ドラマでは「半沢直樹」などが最近香港でブレイクした。

ワーキング・ホリデー制度による国際交流

筆者は、昨年の秋に香港政府と日本政府の取り決めにもとづく、ワーキング・ホリデー制度を利用して来日した。この制度は、「それぞれの国・地域が、お互いの文化や生活様式を理解する機会を青少年に提供することによって相互理解を深めること」を趣旨として、外国人に一年間の就労を許可する査証が発行される。この制度を利用し

て年間1万人に上る外国人が日本を訪問している。

筆者は当初の数か月、WWOOFというシステムを利用して、岡山、鳥取、和歌山に滞在し、日本の農業のほか、藍染や着物リメイクなどの伝統工芸を体験した。WWOOFとは、「労働・知識・経験」を、「食事・宿泊場所」と金銭を介さずに交換するしくみのことであり、ワーキング・ホリデー査証を持つ外国人で知らない者はまずいない。

和歌山県白浜町の
藍染工房(筆者右)▶



▲鳥取県大山町の着物工房

今年をはじめ、筆者は当研究所に採用され、福岡市内で生活をはじめた。香港人にとっての福岡の魅力は、東京のような大都市ではなく、香港のようにコンパクトで海が身近で、緑が溢れる都市であることだ。ほどよい大きさの福岡では、自転車で通勤することも可能だ。公園が多いのでちょっと寛ぐこともでき、休憩している人と気軽に交流を楽しめる。街を歩けば、信号待ちをしているときに話しかけられたりと、外国人にも開かれた都市だと感じることが多い。

日本と香港のワーキング・ホリデー査証の年間発行枠は、現在250に過ぎないが、「遊日ブーム」の後押しによって両政府にさらなる拡充を期待したい。そうすれば、旅行にとどまらず、福岡に住んで働く香港人の数は今後間違いなく増えるであろう。

Global Report

05

インド人からみた日本人と福岡市のポテンシャル



(公財)福岡アジア都市研究所
研究スタッフ

クマル・ダルメンドラ
Dharmendra Kumar

巻頭メッセージ
キーパーソンインタビュー
クリエイターインタビュー
解説「FUKUOKA NEXT」
データは語る
グローバルレポート

日本企業に就職を希望するインド人

経済成長が著しく、自動車産業をはじめ、建設、電機関連の日本の企業進出が増えつつあるインドは、日本にとっても重要な国である。国土面積は日本の9倍、人口は約12億で、近い将来、中国の人口を追い抜き世界最大の人口国になると予測されている。今、インドは世界最大のマーケットとしてだけでなく、英語を公用語とした民主国家としての安定した投資先として、各国に魅力的に映り始めている。

インド人へのアンケート調査^(※)によると、インド人の90%以上が日本に対して好印象を持ち(図1)、日本人は勤勉だというイメージ(図2)だ。インド人は非常に議論好きなので、自分の主張をしっかりと行うが、反面、日本人は物静かでおとなしい、という印象も抱いている。就職については、海外留学・就職を考えるインド人の44%が、日本企業の就職を希望している(図3)。世界で存在感を発揮してきたブランドを作り出す日本人の生活や歴史を見てみたいという人や整備されたインフラ、日本人の他人への配慮などに感動し、「また行きたい」「住みたい」という人も多い。実際、日本語は英語よりも圧倒的に多く学ばれている。

インド人留学生からみた福岡市の魅力

日本とインドの経済連携協定(EPA)が発効されたことで、インドからの輸入品が安く買えるようになったこともあり、日本での長期滞在もしやすくなった。福岡は、学校数が多く、東京に比べて学費・生活費は安い。商業・サービス業などの第3次産業が多く、業種や職種も多岐にわたる福岡市では、在日留学生はアルバイトをすることで生活費の一部を稼ぐ機会が多い。さらに日本語や日本習慣を学ぶよい機会であり、アルバイトがきっかけで将来の就職にもつながるケースも多い。

交通の便がよく、ショッピング、グルメ、遊びが満喫できることも福岡市の魅力の一つだ。博多どんたく、山笠など、地域に密着したイベントを通して、地元の人たちと交流もできる。また、「福岡アジアフォーカス国際映画祭」では、インドをはじめアジア各国の映画が上映されるなど、親しみやすさもある福岡市は魅力満載だ。福岡の知名度も東京、大阪に次いで高い(図4)。筆者は今後も福岡をベースに日本とインドの交流を支援していきたい。

アンケート調査

図1. 日本国に対するイメージ

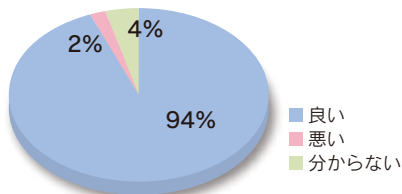


図2. 日本人に対するイメージ

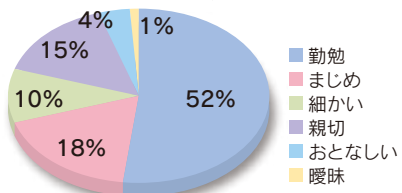


図3. 就職したい国

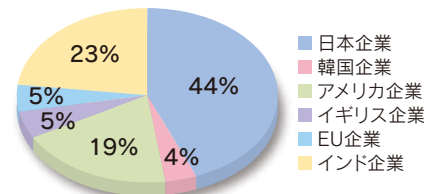
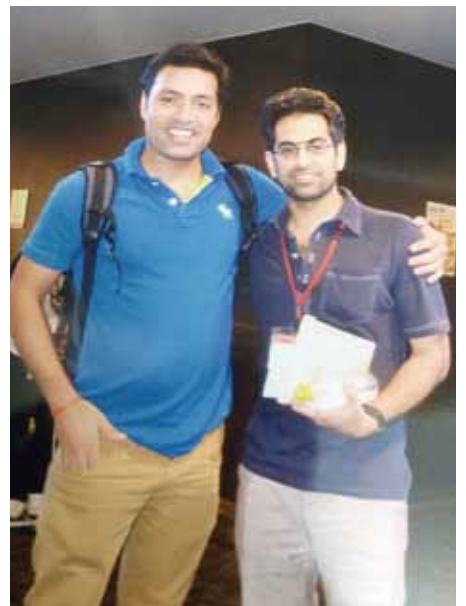
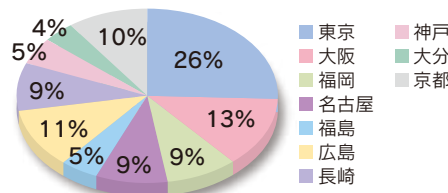


図4. あなたが知っている日本の都市



▲福岡アジアフォーカス2014 筆者(左)とRichie Mehta監督

※本アンケートは、首都デリーにおいてインド人を対象に実施した。アンケート回答数は、合計139名。その内訳は、大学生・大学院72名、社会人32名、専門学校生35名である。

INFORMATION

[URC活動の報告]



平成26年度総合研究

福岡の国際競争力に関する研究

福岡は、国際地域ベンチマーク協会に所属する首都でない5つの都市、シアトル・バンクーバー・メルボルン・ミュンヘン・バルセロナと極めて高い類似性を有しています。これらの都市は、首都・経済首都として国家の覇権争いを担う第1級のグローバル都市群でもなければ、トップ集団の座を虎視眈々と狙う新興国のメガ・シティでもない、いわば「第3極」のグローバル都市集団です。福岡の「第3極」の都市としての評価を高めることこそが、国際競争力の向上につながります。このなかで、福岡は「生活の質」においては他都市と同等の評価を有するものの、「都市の成長」においては一定の格差が認められました。福岡の今後の戦略は、高い「生活の質」を維持しながら、「都市の成長」を持続的にもたらすことにあります。そのために

は、「グローバル創業・雇用特区」を足がかりとして、国内外からの積極的な投資や優良な人材・企業の集積を促進しなければなりません。報告書では福岡地域の持続的な発展を目指して、グローバルな観点から福岡の国際競争力を把

握したうえで、今後の競争戦略の方向性について提言を取りまとめました。詳細な内容につきましては、URCホームページよりご覧ください。

<http://urc.or.jp/h26sougoukyousou-final>
担当：久保・山田



平成26年度総合研究

福岡の『スタートアップ都市』づくり

総合研究(スタートアップII)の調査の一環として、1月31日(土)にグロービス経営大学院福岡校にて、現在修学中の方及び4月から修学予定の方で、福岡市での起業希望者(及び起業した方)を対象にグループインタビューを実施しました。福岡にゆかりのある4名の方にご参加いただき、起業にける熱い想いと福岡市への期待を語っていただきました。

■「起業」に向けての様々な想い

参加者からは、企業での業務や海外留学等を通じて様々な経験を積む中で、「想いを形にしたい」「人の手助けがしたい」「社会を変えたい」との想いが徐々に大きくなり、それが起業に向けての原動

力になってきた様が熱く語られました。現在は想いを形にするために、グロービスで経営を学び、人的ネットワークを構築するなど、どなたも意欲的に活動されています。

■福岡市の魅力と福岡市への期待

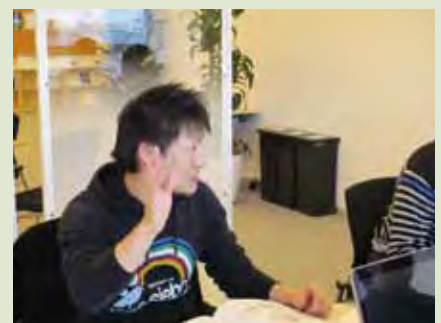
福岡の魅力を感じたところ、「家賃の安さ」に加えて、様々な職業の人が直ぐにでも集まることができる「都市のコンパクトさ」や、交流が好き人が多いのでコラボレーションが起こりやすい、という「人」の魅力が多く挙げられたことが印象的でした。

起業に向けた準備の観点からは、福岡市に対して資金面の支援のみならず、

「人との繋がり」に関する支援への期待が寄せられました。例えば弁護士や税理士等の専門家と知り合うための支援があれば、書類に関するリーガルチェックを任せることが可能になり、事業の方により専念できるとの意見がありました。現在スタートアップ・カフェがこうした支援の役割を担っていますが、起業のための基盤づくりがさらに進められることへの期待の高さが窺えました。

※なお、今回のグループインタビューの内容の詳細を含めて、後日、総合研究の報告書として取りまとめ発行する予定です。

担当：中村



2014年アジア都市景観賞授賞式を開催

アジア都市景観賞は、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標とし、他都市の模範となるすぐれた成果をあげた都市、地域、大きなプロジェクトなどを表彰するものです。国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）、アジア人間居住環境協会（アジアハビタット協会）、公益財団法人福岡アジア都市研究所、アジア景観デザイン学会が主催し、これまで12カ国、48都市を表彰

しました。

5回目となる今年度は「未来へ幸せをつなぐ景観」をテーマとし、日本・中国・韓国・香港・ネパール・バングラデシュの6カ国12案件が表彰されました。授賞式には、福岡市・姫路市・竹田市・三陸鉄道株式会社の受賞関係者並びに各国領事館来賓や招待客を含む約60名の計100名を超す参加をいただき盛会裏に終えることができました。

今年の授賞式は「報告会」「表彰式」「交流会」の3部構成で開催され、最初の「報告会」では、受賞者より各自のプロジェクトに関するプレゼンテーションが行われ、続く「表彰式」では、冒頭に福岡市の中園政直副市長からの開催都市代表の挨拶と国連ハビタット福岡本部本部長深澤良信氏より主催団体代表挨拶があった後、アジア景観デザイン学会名誉会長の佐藤優氏による選考経過の報告が行われ、節目の5周年にふさわしく、白熱した審査会が行われたことが紹介されました。



▲表彰式の様子



▲保存修理を通じて次世代に継承する人類の文化遺産姫路城とまちづくり

国際視察・研修

福岡市と共同で福岡市国際視察・研修受入事業を運営しています。

現在、様々な都市問題を抱えている海外の諸都市に福岡市の住み良いまちづくりを広く紹介するため、下記のとおり5つの分野について「国際視察・研修プログラム」を用意しており、これまでに世界41か国から延べ3,029名（2014年度末）を受け入れました。

分野	視察	研修
①都市デザインに配慮した都市づくり	シーサイドももち地区、セントラルパーク、アイランドシティ	都市景観行政、緑化政策、アイランドシティ整備事業
②高齢者が住みやすい都市づくり	高齢者福祉施設、福岡市市民福祉プラザ	高齢者福祉施設、社会保障・介護保険制度
③水資源を大切にす都市づくり	水管理センター、浄水場、再生水施設	節水型都市づくり、下水再生利用
④環境に優しいごみ処理技術を活かした都市づくり	西部埋立場、クリーンパーク・臨海（ごみ焼却処理）	廃棄物埋立技術「福岡方式」
⑤安全・安心の都市づくり	福岡市災害救急指令センター、福岡市民防災センター	消化・レスキュー技術、救急技術、予防技術



◀◀中部水処理センター視察の様子（カンボジアからの研修受入）

都市政策資料室・ミニセミナー

都市政策資料室では、都市について理解を深めていただくためにミニセミナーを開催しています。今年度は、『福岡・天神時間旅行』の映画上映をはじめ、『和のランドスケープ・プランニング～日本の美しい街並み創造～』出版報告会、『人口減少社会における東日本大震災復興の課題～気仙沼市での復興支援体験を通じての備忘録～』、『インドの経済発展と日本～異文化都市 福岡の印象を含めて～』の3つの講演が行われ、計4回開催しました。



イノベーションスタジオ福岡では第二弾プロジェクトが2015年1月からスタートしています

イノベーションスタジオ福岡では、今回「ライフコースのイノベーション」と題して、未来のライフコースを実現するビジネスアイデア創出を目指し、「地方創生」のモデルとなるような福岡ならではの新しいイノベーションを生み出していきます。ライフピボット、死のリデザイン、人生のチームづくり、レジリエントなこどもの育成、といったテーマが生まれ、5月末の最終報告会に向けて検討が進んでいます。



INFORMATION

[インフォメーション]

■研究所情報

公益財団法人福岡アジア都市研究所は、各界各層の協力と連携のもとに、都市政策を研究し、アジアの視点をも取り入れながら、将来の都市戦略を提言する研究機関です。また、様々なネットワークを構築し、情報の交流・発信を行いながら、各セクターを結びつけるコーディネーターの役割も担っています。「福岡・アジアのことなら都市研に」と誰からも期待される研究所であることを、私たちは願うものであります。みなさま方の温かいご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

使命ー公益財団法人 福岡アジア都市研究所は…

「市民とともに福岡を究め、地域に役立つ研究所を目指します!!」

「アジアの都市と連携し、グローバルな視点でローカルを考える研究所を目指します!!」

■賛助会員制度

年会費（法人一口：10,000円、個人一口：5,000円、学生一口：2,000円）をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる賛助会員制度があります。詳しくは、(公財)福岡アジア都市研究所までお訊ねください。
TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680 E-mail: info@urc.or.jp

●特典

1. 研究所主催のセミナー等の開催情報をお知らせします。
2. 都市情報誌 f U+ を毎号1部無料でお届けします。
3. 研究紀要を毎号1部無料でお届けします。
4. URC資料室だよりを毎号、eメールまたは郵送によりお届けします。

■都市政策資料室

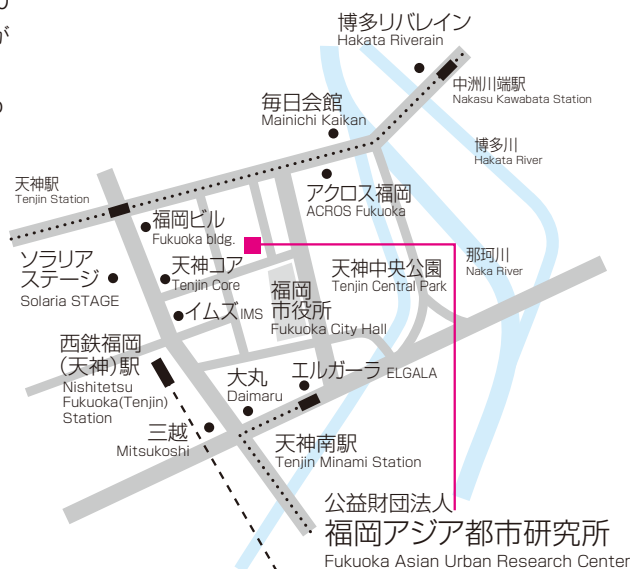
(公財)福岡アジア都市研究所の都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを幅広く収集・公開しております。どなたでもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

開室：月～金10:00～17:00

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期)は休み)
※年末年始(12月29日～1月3日)は閉室します。

毎月最終業務日は閉室日。

蔵書検索：研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。



公益財団法人
福岡アジア都市研究所

福岡アジア都市研究所 情報誌 fu+(エフ・ユー・プラス)第15号
2015年3月31日発行

■発行所

公益財団法人福岡アジア都市研究所
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1
福岡市役所北別館6F
TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680
E-mail:info@urc.or.jp

■編集責任者：梶原 信一

■編集スタッフ：的野 浩一、足立 麻理子

■ライター：野田 紗池子

■デザイン・印刷：アオヤギ株式会社

■表紙裏写真提供：福岡市 撮影 Fumio Hashimoto



URL:http://www.urc.or.jp